



26

巻七

七巻

養

291  
7  
1-27



三河志 六七 三河 渡邊政香輯録

御朱印黒印除地寺領并諸士御菩提所部

碧海郡

寺領貳拾三名寺年

禪宗曹洞派  
三才寺舎三年三志余

大漢 林泉寺

口拾壹名寺年八休

口家口流 額田郡大正新渡院 寺年十八名

口村 金龍山宝珠寺

口四名六斗九休

口家

口村 宗中院



A291

口拾畧即斗畧之合

淨土宗法西流額曰額曰大樹寺末

口村 聖道山常行院

口即拾畧

口系口流口末

口村 清淨院

口拾畧即斗畧之合

口系西流海系流下矣曰在畧末

口村 海德寺

口拾畧即斗畧之合

口系口流口所海德寺末

口村 妙福寺

口之拾畧

時系拾畧流相畧及末  
之身口之

口村 称名寺

口之拾畧

口村 龍雲寺

口斗畧外

口村 善龍寺

口之畧

口村 光熙寺

口之畧石

淨土宗西流深系流京都日福寺末  
三寺 三寺之畧係系流畧末法林之同寺之內

口村 盧安山崇福寺

万宝雜記曰 崇福寺 御名分書上

一 權現様淨伯母吉良家、御嫁縁 松平之節之節左近野人信

忠公淨息女吉良東城持廣淨前後御戸、淨居位依之御戸太房

吉良上野外畧外御母也

慶長十四年己酉佛逝云佛位牌佛座候佛成各光雲院敷俊繼  
貞英大姉當山十代洞岸上人燒香當國本村並岡山村奉  
築佛墓其所一寺建三郎号竟雲寺當山末寺也也

佛位牌佛石塔共二光雲寺也也  
當山十六代寂翁卷物記之竟雲寺納屋中云

當寺昔年中嶋村領之由良氏菩提所也也由良氏先祖俗名  
往古過去帳等可有佛座也得云但古過去帳失却仕候當寺五  
代信定上人當寺再建天文十三甲辰年當寺菩提之十部經  
相勸其供養誦誦寫文言中當寺田錄義並領主由良氏代々  
菩提所義也佛座也

當山中古四記如世也也改穿鑿仕云在訊誦寫得見出申候

于今當國芦谷村具末孫應之也也也當寺也也也也

由良与太良光兼 永正年中中嶋村氏神中園中其村中  
地所修復有之云書有社社之方也也也也社所來下

所云也也由良氏此而吉良家下也

### 甚次良光家

大永八戊子年在西社重而修而復有之也

孫右門尉

孫太良

太良七

當山芦谷村也初之候住之云

板倉伊賀守教從子由申候後俗名幾在門申候竟永  
十之丙子年九月九日死云法名一護法院殿廊屋元城居  
士 以下畧之万室雜記可候見

一當時佛座下鳥山中之助政市先祖代之信牌多當山也也也  
墓所當山末寺當山末寺當山末寺也也也也代々石塔所  
也也

一今川治部大補義元公佛位牌也也也也也法名天澤寺殿四品  
前礼部侍郎秀峯哲公大居士

義元公佛判物

一中嶋御崇福寺内寺物諸役等如前々先淨事

一東向寺並山園寺尚兼寺也三寺事諸末寺外水可也

當山福寺支配假雖有申告如持廣佛代不可有相違事

一諸末寺如前々水不可有相違事

一 門徒老若時々之法莫令懈怠出仕刺不守戒律致恣之振  
舞至于居住草庵之輩可改易寺物於其以下之信者  
可令燒却衣鉢矣

一 崇福寺東向寺山園寺尚兼寺也四ヶ寺伐採竹木並棟別田  
別人別門前一切諸役先修之事

右條之領主合点之上出判取由申出際所及判取也 若此分  
於有之者可加下知若也仍如件

永祿元年八月廿二日 治部大輔寺書判 崇福寺

慶長七士寅年權現様御朱下出成下儀長右馬元公之御判取  
達御照沈即未年之出仕等如先規也仰付之御文云成下  
候惣而寺領之御朱下出如世之御文之餘等其何系及不申出  
右是通相違之御文以上

門松之志

御系夢洞院肥前國鴻巣市光寺朱

中嶋村 万燈山長圓寺

門松之志

淨光寺本證寺朱

日村 淨光寺

寺院奇漢口領里八斗 伊奈備前守判取板倉内儀云取  
抄御朱下出成當寺本寺安樂寺云一一向家合我時件  
安樂寺云是也其后寺改大力量割信也一向家云永祿年  
申言後村恩仁寺櫻井園光年申後村安樂寺家云淨  
顯寺板圖く多る別者也  
板倉伊賀守母云親書上人御影寺進板倉在也其由寺  
切寺跡院像寺進板倉家云云名余 茶花科 云寺進之

門松之志

淨光寺西山院淨光流系於日福寺朱

上杉田村 清光山淨珠院

門拾五石之斗

口蓮高僧者流後藏生於中法寺末  
本壽山妙國寺  
二世堂菩薩所 三年十卷余

門五石

淨宗慈覺流鴨田大樹寺末  
未遠院  
七卷村

寺院寺後口上言也末遠院 松年高僧而親長菩薩所也  
親長弘治二丙辰二月廿日逝去 未遠院殿負巖巖頭松大居士  
為菩薩永祿二甲午二月十日當寺建立親長松年 出重書也  
淨息具後青地地 松年國防了家

門五石

一向宗系於中法寺末  
接松山慈光寺  
口蓮地村

寺院寺後口之係地慶本六年伊系係而淨文高僧地  
伊多者後了代惣授也長弟津清在為松家之屋家

門三石

口系路村中法寺末  
本光寺  
上卷地村

門五石之斗

口所  
本養寺

門五石

淨宗慈覺流鴨田大樹寺末  
松林寺  
石四村

門拾七石之斗

淨宗系於知恩院末  
大聖寺  
中三鄉村

門拾七石之斗

一向宗系於中法寺末  
福前山淨妙寺  
信教房俗名 裝

寺院寺後口境口斗 黑系 中興開基 信教房俗名 裝

豊右衛門位者順起江所 唐忠云ノ所妹入妻始相有法在  
宝幢院殿云ノリ 本八天白村之有寺領多し先年水難ニ舟  
多難難成是所水野監物支配九城ニヨリ 善法志行成地  
成是所領ニ成ルリ 古井大炊以先程喜云

口六右石五斗七升

一向宗ニヨリ 寺領中野寺末  
善法用山敷田指俗名新法

野寺村  
雲龍山印證寺

口山判官長身者ノ切願寺終ニ此ノ

口五石

一向宗ニヨリ 寺領中野寺末

野寺村  
古修坊

口四石八斗

淨土宗慈願院大樹寺末

渡川村  
大通院

口三石六斗

口三石口流土部上村隣中寺末

口新  
祐藏寺

口四石八斗

淨土宗慈願院大樹寺末

中修村  
東澤寺

口三石五斗

淨土宗慈願院大樹寺末

長壽寺

口八石

口三石口流

夫他村  
院志光光の寺

口三石四石

口三石西山流

渡川村  
長圓寺

三石寺今ニ長圓寺 淨土宗  
在渡村寺領武志石

口三石阿弥陀寺 淨土宗 在麻生村寺領  
竹千代君十三年弘治二年二月十二日 是所出馬初陣之場也 与信長  
軍兵初合戦大得勝利ニ由末流陣中 駿河

除地之高

一高家之寺事都中頼寺未  
悉之如頼寺終之能之可合見

依岸村

太子山上宮

寄附園拾石

鎌倉系後西風鴨田大衛寺未  
杉平遠江寄附

横井村

菩提寺

白山領書拾石

新り高家系

上条村

神光寺

寺領之拾石

鎌倉系後西風系都中頼寺未  
三才同之

上野上町

福壽山講堂寺

寺院寺後信光公御賢息公鳥鴨殿菩提所弘治二丙辰年十月九日  
逝云法名威法令勝下号本寺建立之師廣忠公合子千文卿  
寄進 檀現之上師城之酒井將監之也一錢乃尚寺也中條成

當院寺上御立願成不日將監落成之依之甲之立物三尊阿弥

陀徳寺福高大明神之御堂内今有尾引庄河城之杉平抄師也

忠右卿御書卷母阿光敬高寺と御書後所定公御内供忠右卿

佛通之後河光敬り御追善佛具色々御寄進所定文五年

大災花鬘十二相鏡彼花鬘曼銘口

為憲堂玄伯菩提奉寄進三列上野隣杉寺若也慶長十二

年三月廿三日主鶴鴨阿光敬白 忠右卿御書卷名憲堂玄伯

居士云河光敬慶長十五庚戌二月四日逝於當寺奉葬

佛法名 喜秀院殿光誉貞祖

口新

行福寺

口抄六石

口系口系  
二身寺領十卷

口之森石

高田系別一身田寺修寺未

岡山清坊俗名玄友落下寺身口系

高田村

平田山妙源寺

二身 六十六卷九丁 下野寺修寺在芳賀郡大内庄高田村原堂



自筆選擇集新考校定有三列以賜寺何所予觀于此  
予為令 弟子村 以賜寺果長念信坊 平日居領之矣  
藤藤寺 初名正次寺而於柳佛堂聽 教書聖人法有隨表發心者  
弟子法名念信賜九字六字十字各名号 各聖人心中四本筆  
有八祖畫像七高僧加馬鳴大士 舍兒各標體頭者亦為祥也  
世亦為弟子法名圓善揚自畫影像

門之石

淨家慈西流暗日大樹寺末  
今ハ額日於暗日界ナリ

弟子村  
真如寺

門七石

門家門寺  
杉平庵後寺善提所

福全村  
宝泉寺

門家八斗

禪家東の山

山崎村  
正法寺

門之石

淨家慈西流之御清和寺末

登陸村  
遍照寺

葛壁

牛田村  
泉就院

之牙 六十九  
十八丁 在石家業年母氏善提所  
完文中中葛壁深元禪師再興

麻生村  
阿彌陀寺

寺院寺後口麻生村河内院寺之御地清古高原寺  
竹外代君由來十五年來 弘治二年二月十二日為所出馬市先備松  
年甚若而軍大和也其後石川仙若乃 門家善寺 松崎寺 寺力  
等軍云之備世寺 寺初陳所也

幸院寺後曰禪曹山臥切鄉村 佐川廣君公別殿在常亮忠政  
位牌在此寺雅名松平島云

中郷  
蓮華寺

幡豆部  
寺領拾石 法華系

湯井村  
了性寺

口四石九斗  
淨土系 禪西流 暗田大樹系

七橋村  
西方寺

口四石八斗

源西坊

口四石五斗

法藏坊

口三石

一向系

安樂寺

口杉之石寺

禅宗の流伊豆村新井寺

江島村  
新井寺

口吉之石寺

禅宗の流伊豆村新井寺

江島村  
新井寺

口三之石寺

禅宗の流伊豆村新井寺

見取村  
新井寺

口五之石寺

禅宗の流伊豆村新井寺

駒場村  
新井寺

口六之石寺

禅宗の流伊豆村新井寺

高井村  
新井寺

口七之石

禅宗の流伊豆村新井寺

須賀村  
新井寺

口八之石

禅宗の流伊豆村新井寺

高井村  
新井寺

口九之石

禅宗の流伊豆村新井寺

高井村  
新井寺

口十之石

禅宗の流伊豆村新井寺

高井村  
新井寺

口十一之石

禅宗の流伊豆村新井寺

横須賀村  
新井寺

口 亥 念

口 亥 念 寺 末

寺 末  
山 堂 宝 珠 院

口 亥 念 斗 念 休

口 亥 念 斗 念 休 寺 末

寺 末  
寺 末 院

口 亥 念 斗

口 亥 念 斗 寺 末

寺 末  
寺 末 院  
一作 光 生 指

口 亥 念 斗 念 九 休

口 亥 念 斗 念 九 休 寺 末

寺 末  
寺 末 院

口 亥 念

口 亥 念 寺 末

寺 末  
寺 末 院

口 亥 念 斗

口 亥 念 斗 寺 末

寺 末  
寺 末 院

口 亥 念 斗 余

口 亥 念 斗 余 寺 末

寺 末  
寺 末 院

口 亥 念 斗 念 休

口 亥 念 斗 念 休 寺 末

寺 末  
寺 末 院

口 亥 念

口 亥 念 寺 末

寺 末  
寺 末 院

口 亥 念 斗 八 休

口 亥 念 斗 八 休 寺 末

寺 末  
寺 末 院

信 白 酒 井 清 秀 乃 建 之 云

口七石八斗

昔石根村

西福寺

口七石七斗

隨雲房

信口每田根城言橋與中又市山と云後高畑村と校居と南高ハ言信

口七石六斗

口蓮の備方

口條多根村

古行坊

口七石

禪系源海流

池頭村

西光店

口四石七斗

信口の徳西流

一色村

今齋寺

口七石五斗

一色村

善伝寺

口七石八斗

七石八斗

東光寺

源福店

宗用店

入の斎寺

善伝院

蓮高店

妙善寺

二ヶ寺退治

口拾之石斗

浄土西山流京都日福寺末

左目死村

校法山不退院

三川堤云不退院元浄田寺云異名篇云海月坊之寺其寺長の  
唐国日記の上高寺の寺老之其比藤田助た云云傳くくげと海寺と云  
あまより上高寺の位寺振常法之腥と云事と知り助た云派の位と云  
ひと云之派の寺云云在りて云云と云と云は由と云康云岡古  
志と云食也一寺一不若と制一の云云と云云の云云云云云云云云  
不退院 應永八年己年暢喜上人兵部佛場之草創大檀越同  
郡徳永城之源於位為雄七十五是也 徳永在馬外先祖也 深嘗師法

味信入浄業天寿有限 應永十八年卯年夏四月廿有之日為雄卒  
葬于此寺早枝法院教一志道丹居士墓塔靈牌存在而後至  
永禄年中東照神君御出陣直川甲斐守善廣於午佛教  
庫院四寮為菩提於寺然永禄十丁卯年秋九月廿九日討死  
道目死戦 葬於此寺号不退院教智空上衍居士 里人至今呼

其地而言大物崎墓塔靈牌在焉又文禄元壬辰年鳥居氏元忠  
字彦右衛門 伊賀守光徳也 再建殿堂擬菩提壇以慶長五庚子年  
秋八月朔日討死於伏見寺流見院殿買字宗慶居士靈牌有之  
口此是右馬口日討死号了性院利孝居士靈牌有之  
墓名 定保三受亥年閏四月

口七石斗

道目死村

日光山五眼寺

口三石斗

口

福德寺

口之拾之石

浄土西山流京都日福寺末

下天回村

飛休山寺

寺号百宝雜花口春富寺殿玉林良久大禅定尼大永六丙戌年正月

昔帝逝去帝俗名於長孫上申候當寺二世昭空智全奉燒  
香御位牌也

一慶長頃檢現樣位發府當必西尾城入沛此乃遊公亮當  
寺之也三寄此乃遊右沛由緒達沛上開沛弟下乃為  
成下公在皇亦沛由緒尊靈樣也此乃遊公亮代或亦由  
緒之也

口糸口流日果

上美田村

虎洞山桂石寺

口之松石九斗

万室雜元口桂石寺、口松戶、崎城、戶崎、次而原、新、長、義、宗、  
觀、應、元、庚、寅、年、建、之、佛、殿、為、甚、從、新、寺、然、義、宗、以、德、四、矣、  
同、年、二、月、廿、七、於、口、松、迄、目、地、戰、死、寺、外、子、也、方、野、中、院、此、今、  
松、存、上、人、呼、曰、慶、巖、樹、聖、牌、有、之、口、當、寺、樓、中、樓、於、慶、巖、善、  
公、居、士、遺、骨、兵、器、埋、於、寺、外、戊、亥、角、若、之、八、幡、其、微、樹、松、一、株、  
今、尚、存、焉、昔、以、慶、巖、字、慶、長、七、壬、寅、年、東、照、祁、君、賜、沛

糸中、以、桂、石、字、從、尔、日、未、改、世、字、焉、口、那、名、祥、城、松、年、焉、云、  
康、忠、右、系、亮、張、忠、公、男、天、文、六、丁、酉、年、投、放、貨、物、再、建、佛、殿、  
天、文、九、庚、子、年、六、月、二、日、討、死、安、城、葬、遺、骸、當、寺、墓、墳、樹、松、  
有、墓、石、靈、牌、号、月、峯、珠、光、居士、孝、子、松、年、為、太、師、家、忠、建、之、  
裏、書、有、焉、完、保、之、矣、壬、午、年、閏、四、月、西、尾、城、古、老、傳、口、上

口之松石九斗

下美田村

熱海店

口之松石九斗

口糸

東光寺

口之松石九斗

本田村

正白寺

口之松石九斗

一向宗、洲山、醍醐、天台、寺、子、福、良、親、亮、  
中納言、顯、廣、卿、為、祖

口之七斗外  
今退路

德次村  
信藏寺

口之石余

浄宗西山流中徳村

口村  
正東山信藏寺

口之七斗

禪曹洞流

美多根村  
藏白寺

口之七斗

浄宗西山流

行用  
福白寺

口之七斗

口之口流  
今樂音店

口  
行白寺

口之七斗外

口之口流

針多根村  
德福寺

口之七斗

口之口流

德水村  
安春寺

口之拾石

浄宗西山流中徳村

新嘉村  
満由寺

今之拾石七斗云今味徳村遷了之寺在一色村之北云云  
尾系劍傳云満氏由氏兄弟建之山号祿知仲山  
任新満云云徳也

口之七斗

口之口流

口村  
常福寺

口之七斗

口之口流

梅村  
阿弥陀院





こゝに新食なれども身中特別の徳ありまふなりし  
年ふ信別をえきし少事治せ一教十日の獲りし一飯も食ふ  
してすしよおむらひしと世に油をりてふりて  
めて斷食の行いしものありしと自らみかくること  
人皆おもひはれしと信仰し治せし事し徳ありしと  
人皆と味はれしとありしと治せし事し徳ありしと  
有りしと世に治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
ふりしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
いふ事しとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
病と治せしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
療せしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
まふなりしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
事ありしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
大食ありしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
備せしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと

形ひしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
まふなりしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
病と治せしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
療せしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
まふなりしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
事ありしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
大食ありしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
備せしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
病と治せしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
療せしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
まふなりしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
事ありしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
大食ありしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと  
備せしとありしと治せしとありしと治せし事し徳ありしと

男女老幼群集して信仰篤信法教の後、徳心より進んで  
 弘きを以て年若きも其の類成然や。然りとて何れも效驗  
 天下に傳へて主なる下、庶民は其の如く、其の信を以て、其  
 の如し。然りぬ或人を免るるも、信上人も、信を以て、其  
 りぬ。亦、其の如く、其の信を以て、其の如く、其の信を以て、其  
 の如し。然りぬ。亦、其の如く、其の信を以て、其の如く、其の信を以て、其  
 の如し。然りぬ。亦、其の如く、其の信を以て、其の如く、其の信を以て、其  
 の如し。然りぬ。亦、其の如く、其の信を以て、其の如く、其の信を以て、其

三川堤曰北条時政ノ女ヲ取テ養女トシ且利トシ總帥義兼ニ嫁シ義氏  
 ヲ生義氏西条ヲ領スル時兼久中ニ逝去 法各 本成大柳或ハ本  
 条トモ當寺代々尼寺ナリシカ迫頃五穀ハ勿論何ニテモ年久シク  
 断食ノ厄アリ俗是ヲ不食尼ト稱ス 諸西工圃ニ是不常ノ奇怪  
 ノ莫ト云ヘ凡莫ニ不食ナリ元當村ノ百姓ニテ十四年ノ吃當西風集

寺ニ集臨ノ者其母是シテ伴シテ彼女モ口道ス其城ニ於テ串  
 枘ヲ三ツ四ツ食シケルマ、ニテ性末凡ニ何ニテモ不食夫ヨリシテ日ヲ経テモ  
 不食故父母驚テ病ナルヘシト種々ニ療治モ加ヘ或ハ祈念或ハ三光  
 呪符スシテ一切食物ヲセス然レテ顔色取振常カ変ルヲヤシ初ノ禮  
 不思議ニ思ヒケレ後ハ常ト成ケルニ十九年ノ吃自尼ト成クヤシ望  
 死父モ無詮方尼トナセシ岩波氏ハ計ヒトシテ世長寿尼也其弟  
 子ニナシケルカ後ニ終ニ住持トナル名ヲ長壽ト号 昭和三年  
 十二月二十日卒 年三歳

口部抄々々石  
 降部前西山流  
 寺傳村  
 十冠山中長也也

口五石余  
 口部前日流  
 義光院

口三石七斗

口家口流

妙光寺

口四石上斗

禅家園山流西三町実相寺末

源濟山金剛院

口拾石

口家口流

角羊村  
仙德寺

口拾五石

禅家徳西流

長繩村  
奴福寺

口拾四石

口家口流和田津瑞院末

萩名村  
萩名山海蔵寺

口拾貳石

口家口流

口  
西福寺

口七石

禅家曹洞流太保長興寺末

開戸村  
香金山安泰寺

口三石茶

禅家西山流中津村口家福寺末

古津村  
大通院

口三石八斗

口家口流

神尾村  
一作祐  
光秀寺

口拾石

禅家園山流

法光寺村  
法光寺

口五石余

禪宗曹洞宗  
荒川氏廢所

心面村

真成寺

口五石余

今遷轉真世寺入

善世寺

口七石

禪宗曹洞宗  
文永八年  
吉良義親氏建之

瑞鏡山実相寺

元享初書云文永八年總長別駕建実相寺冬州延爾力才  
一祖 二代應通禪師塚下ニテアリ其後織田諸堂と  
燒ク遠列ウフミ村ニテ假佛殿と買得ク佛と一雲ニ安置ス今  
秋迦堂是也且後伊奈宗正に云七石と寄附ス  
天瑞住持の傳吉良宗と離リ  
由美百葉集ニハ七石トアリ村ヲ右ハ竹崎ト云

當寺ノ約持ハ約常トハ大ニ異形ノ相傳當寺ノ二世ハ唐僧なり或  
時座禪シテ居ケルニ俄ニ玉禪ヲ掛テ弟子ノ大衆ヲ呼出し唐ノ  
經山寺ニ失火アリ加勢シテ火ヲ消スルハ有ベカラズ出積シテ水ヲ  
汲ヘシト大ニ自分モ傷カレル門前ノ者共ツモ妻ヲ呼寄ラマ水ヲ汲セ  
コエカケヨ彼ヘカケヨト七轉ハ倒シ玉ヒケルシ大衆モ門前ノ者共モ  
大ニ肝ツツラシ若シ狂乱ニモヤト思ケル内ニ暫クシテ扱々悦ビヤ事哉  
衆ノ出積ニ依テ大塔ヲハ残シタリ皆大受ナリ休息スヘシトテ其後ハ  
何ノ沙汰モナシ予三年ニ當ル年唐僧一人來リ我ハ唐ノ經山寺ヨ  
リノ使ナリ云ル年出火ノ砌ハ加勢ニ依テ大塔ニ急燒殘リタリ  
右ノ佛礼ニ乘リタリ批謝トシテ彼塔ノ宝鐸一ツ送り進スル由ツ  
申ス住持大ニ悦ビ彼唐僧飯リシ後テ大勢人夫ヲ呼ヒ井  
ヲ掘ヘシトテ深ク掘ケルカ約撞ノ如クナル物ヲ掘出タリ刻是ヲ  
約撞ニ用ヒラレケル皆荒之奇異ノ思ヲナシケントナリ実ニ宝鐸ト  
モ見ヘタリ世ノ常ノ撞ヨリハ甚高ク口モ花形ニテ外ニ反リタリ下ニ波  
ノ形有テ上ニハ天人ノ形ヲ濤摸シタリ鳴ル声クワント云カ如シむ奇

物之其井今ハ覆ラレテ鏡ヲロス大法令ノ取世水ヲ汲ト云アリ

口杉畠田半宮外  
口家口流  
愛河村  
道興寺

口杉寺石  
口家口流  
龍門寺

口杉寺石  
律家曹の流  
西尾  
雲尾山康會

口杉石寺半  
向春軒

陰地杉寺石余  
清龍山令蓮郷文瑞

杉石云建之屋大帝歴長送三ノ由七清書の内ナリ昔志云  
家ナリ別堂不動明王ノ名屬ス弘法大師の作モ古ノ中  
ニシテ聖發度々有之由中ノ夫物群集ヤリ今ノ如キモ  
河海陀句リ

加茂郡

松平村

淨土宗慈西流系於多恩院末

寺跡百石端世第衣松平親氏云市庭所

本松山高月院

寺跡松平太師代馬尉親氏建之 親氏若德川有親之子 法名 芳樹  
院 俊山德公氣

日村

嘉云系古領書云

明照寺

谷越村

并島寺云并島之村也

是八渥養郡也

本光山長泉寺

長興寺村

禪宗臨海流系於安福寺系  
寺殿跡杉口名建武三乙亥仲條  
備亦寺長造三

信雲山長興寺

北古沢洞村

禪宗曹洞流大洞系就院系  
寺殿七名中一

新田院

梁山村

口系日流青陽村傳法系  
寺殿跡中名三身日之武三乙亥

大龍山妙照寺  
三才作昌

伊保村

禪宗曹洞流山成山流系  
地中田代寺跡曰一寺殿百名  
切及代考大極形

大好山永福寺

二井寺村

天台系山戸系東嶽山系  
松年集人云寺跡曰  
寺院寺迹曰天台系不見喜谷  
松年布護署以杖持願有青山

二井寺

瓜色地ト三井寺ヲ後侍ル  
和曰二系松仁井有可吟味系嶽山系末句

尾古多根

法系系慈西流鴨田系  
寺殿七名

西林寺

貝子村

口系日系寺殿七名

林松寺

上野村

寺殿寺殿七名

行福寺



額田郡

鴨田村

浄土宗慈西流京都智恩院末寺領七百石

成道山大樹寺

三好吉房書院末寺領七百石

東海寺書院末寺領七百石

か高光大師書院末寺領七百石

の美之

邦像右の方阿彌陀佛八源光念持佛と不禰・秋緑の画

阿彌陀佛永徳の画牡丹の画も日蓮の画の写し惣合ふて

竹ふ鶴の画も永徳の画や枝戸の画八種又麝香あり

八鹿の画も筆の繪有り 將軍の書成り上は松の繪右左と

相ふ風風あり梅小雛子振例の枝戸の猿猴又ハ布袋ノ唐

不遊ハ塗縁祖天井中ハ草花の画有り 什室ハ吉瑞大貴小と

不奇あり 古の昔ハ國初將軍の軍我のと此世の傍

信ふ事云々と云大力の勇有り敵常高少の乱入の時以貴  
本を以て教百騎を討殺し淨馬の術を以て守護し猶初め凱旋  
と揚り故に在瑞の兵器と一高山の才一の付事なり

牙易會中九老 永福 幸神君在尾列大高塔潛退於高

寺九月廿日信長以多勢急攻之信守成難禰公欲求淨を

字書德寺僧皆棄身命坊之中在祖道坊云者大力

勇者也一心以為今日勝負宗門盛衰極於此用門刃戰

敵一時敗走陷深田同士相壓死者不知數 公大喜翌日

八岡崎攻而三列士民感佛陀擁護且 公稱剛運焉上人

又行演賀義献酒肴三二十六遍數珠連益示用弥陀

佛力宜平治天下 公大感得焉

刪補松口義元没後 上軍安り避退祖寺の好を以  
く大樹寺へ入り之世登云上人保之厥能禰公修末淨去  
の旗り且且人々驅集メ歳日勢を防り 下畧  
又淨宗復國篇 卷二

淨宗復國篇四 神君大感悟決定信心拜受十念俟敵兵

至寺有一僧號曰祖同勇悍多力能敵八十夫時祖同介

曹帶刀為 神君御馬敵兵方至已逼寺門絨扇是固

欲入之從 神君曰用門拒之事似怯弱言未訖援刀斬門

關祖同曰此豈足以煩於君手耶便進破鎖登戶而立

神君上馬祖同執其馬勒而先登之從者十八人亦隨突

出雄壯威猛無敵近者敵兵大潰 神君得捷 下畧

創業錄 卷三 卷別成道山大樹寺ハ佛當家祖考ノ庭所

故勅願所ニ准セラレ遷居上人ハ論旨と云下卷河本大樹

寺為勅願所須用志宗弘通之云門祈 室祚無疆之

丹誠者綸命如也仍執達如件

慶長十一年九月七日 以左中辨友宗

岩津村

口宗日系之役与彌蒙衣寺領石武松石

弥勒山信光明寺

三牙尊領石在延西流小和寺當國寺寺内紫衣  
德川右京亮信光公之弟善提所信光卿者恭親卿之子清

康公ノ高祖父也當國岩津島所領之後又領安城馬長寺  
二年七月二十七日卒 法名 崇岳院殿日空 与院寺後日之

### 能見村

日家日來之役寺獨以崇岳寺  
寺領百石之年落西流十印寺當坐  
之箇寺内世系長

能見山松鷹寺

德川道幹公之菩提所

創業緣 十二卷 松鷹寺淨建之五拾石と無所也  
寺院寺後日孤松形寺号ト入之河十印寺之年寺崇岳之

### 岩津村

津古家西山流高郡田福寺末獨崇岳  
寺領百石之年六休之合之勅所給名 法性山妙心寺  
之年百石之年 松年親創建之  
寺今万室雜池 信光公長男親則云ト云津成在妙心院敷前

在少無朝儀古史考仲祥公居士 俗名 松年備中守親則  
完政二年己年十一月歿

日塔院 真淨院 信光保也為所由菩提所

### 岡崎

日家日流高津大林寺末  
寺領百石

安養院

### 能見村

禪宗曹山流湖山下松寺末  
寺領百石

永泉寺

### 川村

日家日流大寺御海院末  
寺領百石

勅喜寺

### 岩崎

津古家落西流鴨田大樹寺末  
寺領百石  
寺清庵之妹春榮大師菩提所

佛現山隨念寺

寺院寺後日之

創業編 隨念之一命家信秀寺什物之寄也元丁巳歲可合見

日所

詳其京西山流傳帝流帝都田福寺

飯防山批之教寺

万宝雜記口用山恭翁慶岳上人三列等語出之出家修學後日所  
大林寺致位特其後洛陽批之教寺被致特位復永福年中批云  
初年之退世國故之別是語一飯國仁當分院居所也亦未復故法  
類方罷在腹門 禮現樣淨居寺之僧尼依不淺是語淨城長  
方山自素飯防山批之社有之世山一寺被遊建之恭翁  
被下置即飯防山批之教寺山号此成下依之慈寺飯防山批  
淨居依

一禮現樣淨居寺位等儀并此遊奉國度及有由在恭翁儀久如  
系批之教寺位儀年之此波香日 批之書長能之此教公前蒙慈  
之方更有之在恭翁致上系傳奉之申遊復以八松年亦此能法  
約有之在之別一此律重而弟子慶深差上世 德行殊淨系  
儀傳奉之此申遊復則勅律有之 禮現樣淨居寺此遊淨居依

恭翁勸淨居寺由 此慶其此位傳奉之恭翁之此指下之此狀今  
批之教寺什物之罷成儀之有之

一慶長年中寺社領之在是復節依仰伊奈備示之教先規  
市及批之教寺院內分而十一名余外地而十名余都合二在是  
石余也成下候分是所城之在量儀之教也申慶復此所其此  
位特於申告之法之例之通院內外而二十一石余也成下候依  
申上候其是 早遊不相叶此淨居依仁月一年月此遊 禮現樣  
淨居不頂戴不仁依之 台德院樣淨居亦之在沙在 其後  
大歐院樣淨代淨居申上境內分十二石余淨居亦之成下候寺

內外十石余之水帳人今之此在依事  
一禮現樣淨居系此等儀勸淨居後恭翁由舊義之此下在之市上  
意也此等如恭翁臨居身殊一寺中慶之此成下候有在淨居上  
義之遊而辭退申上之依之弟子慶深在在之此中慶深相果山後  
寺領淨居之善重院申之此在慶深相果山後寺領淨居之  
善重院之此今者斷絕此

一 権現原淨官位 勅淨師 勅書宗淨於其帝奉旨淨致丹  
之香金御之之香徳市致之つり并 庭上器候虎石と成下  
一大須賀高尾忠致壇頭福聚庵(寺領三百石)附浄書所  
沙石(唯今之福聚庵寺領六石)絶社也

明德院殿東岸浄春居士 大須賀高尾忠高 正徳三

深孝院殿華屋炊屋大姉 柳宗七高尾致浄母成在 永徳七年三月十日

雲清院殿測道意泉居士 大須賀高尾忠高 永徳八年六月十日

右通也位解也原浄坐位以上 實保之卷三年四月

日所

禪宗曹洞流明光寺村御海院末寺領五石  
弘治二年元信之所由云徳文之在之

東林山大本寺

日所

日宗日手寺寺領五石

白雲山寶福寺

寺院寺後口

遊傳寺 寺領四斗半

光蓮寺 寺領一撥半

圓頓寺 寺領一撥

世平水野前城門

郎吉田ヨリ御稔

寛恩寺 寺領一撥

無依一撥寺能見

可

日所

日宗日末寺領五石  
卯五石 白山願文配三石 三石五石

福徳山極樂寺

日所

日蓮宗一致流甲別身原山を寺末  
寺領五石 有二名村之寺在焉  
寺領拾石 原親造卿自其城下也

大光山善寺

日所

禪宗曹洞流尼寺築山殿保言氏芝判  
寺領百石 三石四石五石

瑞生山總持尼寺

寺院寺後云淳和天皇之河國其臣生郷白狐奉悩由情中上  
ヶ六別り本回氏弓勢達者依野狐退治系勅定退治野狐  
六拾余別上集獅子系協の築中一狐尸ヲ納メ獅子塚也  
當院之尼 正親町之系實積卿也

刪補和口也右氏鳴法ヲ以て也快也又依之世臣村八百石の地と中  
間氏之編つ六十二別男地ノエリ以て福徳山と築祠ヲ建是利尊氏  
之の執事一高師直カ女尼と成とあるは假也其の寺領五石と云不詳

日本外史 卷六 我軍有一騎獲了立岸呼曰得未而未必載津故置酒高令請進一物佐酒注箭而發適有鶚攫魚而拳乃馳而射之所其復翼隨敵舟中西軍謹呼尊氏使人問其各答曰東人或識請投刺焉復發一箭軼三百步貫舩舩尊氏視其箭毳於箭口相摸人本間資氏敵中傳觀資氏揚扇呼曰古兮戰國一矢可愛願見返賜賊中有答射者箭不達岸我軍卒笑射者慙憤以三百人上岸義助擊殲之

門卷曰雲母坂上本間資氏相馬忠重在美負側職而笑曰今日之事不復煩諸君下石餘步相命各射一賊貫甲穿胄賊不敢前二人顧我軍曰戰且合矣為吾立的吾將習射我軍植畫月扇二人相誡而射月乃覆而箭夾月乃解箠鼓弦自名於敵曰盍受吾箭哉甲堅脆賊惧不戰而卻

門卷曰本間資氏等依策與入京師尊氏因帝及佞者殺資氏以報兵庫雲母坂之役

口所

淨土寺系系於中野寺系於願持寺

本德山專福寺

口所

口蓮系於願持寺之斗四外五合今在尾尾村号口福寺

遊泉寺

口所

口田系於別一身因寺修寺末河内山系本口福寺深海上人字子寺領五石山

田生山滿竹寺

八町村

淨土系西山仙傳系流系都田福寺系寺領百石在石余端世系夜寺

拾石山大林寺

二年云德川原廣運卿天文十八年三月六日逝云二十四年法名院雲院殿應政道幹公慶長十六年三月廿七勅修位位大納言 邦君父也葬于寺

千壽寺

寺院寺後口松平左馬御松平洋正松平三安儿

明大寺村

釋宗曹以流大久保長興寺末  
寺領之在石山横外私尚潭意苦提所

滿珠山龍海院

六十九寺 源清廣云一時寓於當寺其夜夢見是字有掌中  
人判之曰其畫曰下人也其德化可覃於天下也而遂曰增威至 家  
廣云為天下第一流之將前表嘉瑞寺或因俗稱之是字寺

六名村

天台宗東叡山寺寺領部石  
寺之曰源長宗東征凱陳藏甲  
院無故各々有六坊

長耀山甲山寺

第六供六坊 東内院 華藏坊 定光坊 多宝坊 極樂坊

密淨坊

寺院寺後云天下安全長月護摩所

明大寺村

釋宗曹以流院村石末  
寺領之在石山横外私尚潭意苦提所  
寺領之在石山横外私尚潭意苦提所

成就院

剛補石の境内大正坑あり傳云夫短長者女淨瑠璃姫世に隠居す夫ヨリ  
菅生川へ身ヲ投ケリト云世坑中蝦蟇蟻穀ク有テ右ヨリ申シ見ル者ナク  
其淺深ヲ不知然ルニ予若年、彼世に至ル寺ニ入テ休息ス其間、石  
連シタル僕世に窪ニ入りテ淺深ヲ試スルニ深サ十六七間巾七八間ト云  
伝持ヲ始自是崎口途ノ者ニ初テ其淺深ヲ聞タルト云彼伝者  
蛇歎シタル所ハ早速多クシテ治ス云  
寺院奇蹟、口昔高文里中録倉街道也東矢作高竹園伏見中  
納言兼高卿ノ姫淨瑠璃姫ノ調度ニ洞浮檀令以鑄ル珠ノ手  
筒冷泉尼賣、世寺ヲ建立セシ冷泉寺ト云淨瑠璃姫、身投タル淵  
有池ノ主鱸魚ト成テ流轉姿淺、後西天作モ長者ノ跡有源九良  
義經淨瑠璃姫カ形見齋香ノ脩送り埋ムル塚アリ  
私ニ曰世塚寺ノ頭村ノ内三湯コワセキニ在テ今ハ尾崎村ト云所塚  
有ト云宇頭村ト尾崎村トハ昔ハ一村ト後人考トアリ

川村

川村の流能見村、水石寺末  
馬市末

安心院

栗原村

日高川輪船所 栗原山南林大禪師  
寺領部在 遠引橋村大洞院末

大沢山訖溪院

真福寺村

天台宗栗原山末在 寺領部 音書在  
今音書在 寺領部末

雲鷲山真福寺

音書 海清院 隨古院 海智院 訖池院 當行院 大泉院

寺口相傳云 寺屋大連三男 真福流 寺當由 仁木卿 先後屢有  
靈異 改建寺

寺院奇蹟 口住昔推古天皇時 寺屋大連三男 真福大臣 之河 坐  
仁木卿 之流 或取山上 瑞光 靈光 靈光 真福大臣 奉上見池 是故  
良菓 云 法花 又有世地埋 寺建 不理 大臣 信心 疑 金浪 珠  
玉池 投入 半埋 其上 堂 之 某 師 佛 亦 靈 入 瀧 田 政 清 弟 能 臣  
先院 之 位 入 瀧 田 大 善 信 寺 有

瀧村

天台宗栗原山末 寺領部 音書 十二 寺 額 靈 院  
在大坊 之 才 口 之 右 寺 末

吉祥山訖山寺

寺院奇蹟 口略之

刪補 山口谷 河流 訖 山門 額 少 也 道 凡 真 蹟 上 云 寺 額 靈 院  
史 府 當 山 住 兼 之 師 楊 末 宗 天 張 云

川村

禪宗曹洞流 遠引 橋 村 寺 領 部 末  
寺領部 在 右 山 訖 池 末 尚 之 才 口 之

慈德山下松寺

櫻井寺村

真云 宗古 義我 高野山 寺 領 部 末  
寺領部 在 右 寺 領 部 末

花園山櫻井寺

之 才 六十九 卷 十三 弘法 大師 所 撰 櫻 井 寺 領 部 末 以 是 故  
掃地 則 活 生 遂 成 花 園 故 名



斤寄村

禪宗臨濟開山流宗師無心守柔寺領七柱九石  
小半、芳七柱九石鹿苑院長満云建之 足利尊氏

廣沢山天恩寺

補正曰建武足利尊氏討日義貞確執依之口十二月義貞僅余り攻北し飯  
路赴り時尊氏其跡と追々登り三列矢射し之を以て尊氏軍利ありしが  
一々引退りて大なる休息し軍兵と慰勞す此時當寺に席依し荒祭と稱す  
翌年上洛し義貞と闘諍し一旦敗れしに再築紫ノ兵と信し勝利と  
稱して終に將軍より後嘉吉元年尊氏孫鹿苑院長満云富士一洗の時社  
父の好むと思出て當寺に之寄破壊の修造すト云云

平地村

一向宗西下於寺兼宗所故之山号  
有河佛女寄進 虎寺領於之石

光顔寺

春滿村

一向宗東中於寺末三河之國寺自寺領者六年常  
開山於清坊俗名和日氏  
寺一々如於寺終之可合見

和日山勝鬘寺

尾虎村

日蓮宗、寺十宗久保澤眼菩提所  
寺領於者六年久保氏菩提所

海雲山長福寺

細川村

淨土宗、德西流鴨田大樹寺末  
寄附田村本村寺菩提所  
寺、口大杉寺、在細川村、德西寺領、石

招明院

一作 稱名院

久保田村

淨土宗、西山流、深草流、岩澤、妙心寺末  
寺領、於、石、尾山、良顯、上人、有、信、忠、云、者、下

葉雲山西之寺

大草村

天台宗、寺領、七石、俗呼、号、山、寺

南城坊

高隆寺村

天台宗 寺領之在者  
寺口寺領之在者 聖法大師

白雲山高隆寺

龍泉寺村

日蓮宗 遠別龍泉寺  
寺領之在者

龍泉寺

桑谷村

寺領  
寺十二丁云 松平在 宗亮忠政菩提所 廣忠  
公ノ弟之始 号 廣中寺 後改之  
神位 祀 表 出 継 母 戸 田 氏 女 光 仲 故 淑 大 師 ノ 世 裏 也

光仲寺

坂崎村

浄土宗 深谷流 寺領 劫 在 四 石  
三ノ口 之

西方寺

深溝村

深谷流 洞 流 肥 前 寺 末 寺 領  
寺領 寺 十 丁 云 松 平 在 宗 亮 忠 政 菩 提 所 廣 忠  
公ノ弟之始 号 廣中寺 後改之  
神位 祀 表 出 継 母 戸 田 氏 女 光 仲 故 淑 大 師 ノ 世 裏 也  
寺口 在 深 溝 一  
御 宿 名 物 延 西 八 節 為 銘 ノ 旗 長 寺 却 大 余 中 寺 寺 余 有

瑞雲山光寺

日村

浄土宗 延西流 日村 大 樹 寺 末 寺 領 劫 在

之 光 院

日村

日蓮宗 寺領 劫 在

親師山長満寺

山中村

浄土宗 山内流 末 寺 領 劫 在  
開山 龍 巖 上人 号 圓 覺 院

二村山法藏寺

東海 聖 德 太子 行 基 佛 心 之 旨 奉 承 之 法 相 宗 人 如 是 之 親 也 寺  
至 一 寺 出 生 寺 云 宗 尊 親 王 紀 川 云 於 此 之 御 師 也 人 云  
の 世 亦 出 生 寺 云 寺 領 劫 在  
西 寺 阿 彌 陀 佛 後 小 松 院 佛 寺 至 德 二 年 宗 親 弟 福 寺 教  
公 知 上 人 奉 承 淨 土 檀 林 之 法 藏 寺 之 改 山 二 村 山 之 号 寺 領 劫 在  
は 地 方 人 也 且 徒 也 之 次 在 秋 迦 法 院 之 二 寺 也 人 云  
院 内 勅 音 堂 初 之 御 師 之 福 寺 經 院 法 師 之 上 檀 地

か初軍の清文下使の各象アリ質勝水とよし初初軍家此の  
の此程水と又口あり大木の古松アリ曬橋掛松と云

貝系在池の清の留けを花のし其のより此愛樹と云

之才高倉と云此君清知又時子書弟之寺也其書宗家右

后梅公自取松子所種之者今為大木

創業流世是慶長八年四月廿八日此君清妹夫田清方卒云

冬別山法藏寺を葬り長光院敷上早入長沢松平上邸以改

忠の後室とく上野の康忠の母と云

万宝雜記曰長光院殿玉峯宗壽大師之八権規保清妹

夫田清方則之別長沢松平上邸外康忠様此内室中座云三別清

在居席多年此寺の清弟清と遊其後武別深谷の清能彼彼

慶長八年四月廿八日於彼地清逝云と遊の清遺言清遺

骸奉納此寺の同茲寺内の清位牌 並清廟也云

右外清由緒傳り靈清之清座云

法藏寺印

法藏寺造 慶長十七年壬子文化十四年迄二石四年二成

法藏寺也及者中

口塔頭

口家口寺末寺領松部石

嘉勝軒

寶飢郡

西ノ郡  
蒲形村

禪宗曹洞派大保村長興寺末寺領七石  
松平帯刀廟所

龍臺山天桂院

松平玄蕃九家清室石塔當寺在境内天桂院大婦人ト号大  
神君御妹実久松佐渡守俊勝ノ娘ナリ 大神君ト佛同袍 松平  
家清ニ嫁セシメ玉フ家清ハ竹谷松平守家六代ノ孫ト云在田城  
ナリ委ハ三河船ニ載タリ

松平玄蕃頭家清代ノ墓 家清子民部少輔忠清ノ家督トシ吉  
田城三万石ヲ賜ル度長十七年卒云、此嗣子依無之茅清昌一萬  
石ヲ賜リ西ノ郡ニ令稜給フ

川村

日蓮宗大久保村長田寺末寺領一石

山禱山長存寺

三川堤云京右口蓮一致流布山京郡堀川通本國寺鶴殿長  
門寺長持墓在當寺境內

### 清田村

淨土深草流高極田福寺未寺領於京  
号和合院合一作号  
楠林山寺樂寺

久松依渡守定俊墓在境內驗於天正十三年乙酉二月十三日  
卒又法名華山家心居士 傳系委三川水載久  
寺院奇後口世時西郡城之鶴殿藤太而長持家康云別心有  
久松勝俊鶴殿追討蒙君命長持卜相戰鶴殿之御退治也  
寺前三四頭三面、松有大樹云佛母云玉碑有久松俊勝之廟所有  
万室雜記曰 東照宮様三列馬所居在城、取口列宝飯郡  
内佛出馬法為遊坂切上申所、御陳之居居口由浦形庄城之  
鶴殿長門守藤原朝長持子息藤右而長範卜御戰  
四年  
同 五年 被為討取長範即西郡属津手尾引阿古居城之久松

依渡守長家ノ浦形城之被仰付候此時當寺ヲ長家ノ善  
提所被定者也因茲永禄八年五月廿日九極月十三日寺領寄  
附之直筆當寺被下 天正十三年三月十三日卒去葬此寺  
墓松石塔位牌並寄進狀于今御代也

陽光院殿華林山家心居士 天正十五年二月十日

久松依渡守長家 松林山城之徒四下侍從 松平隠岐守定

直補之 五輪塔裏如世記云

位碑 信蓮院殿先岳智香容譽禪定尼 慶長七年八月廿九日

厨子八宝永年中 松平隠岐守殿寄附即裏如世記 松平隠岐守

源定直補之

三河吉田城也 松平玄蕃頭家清室法名天桂院殿 久松依渡守  
長家息女清母堂奉始 東照宮様 松平信俊守殿 松平親中守  
殿先祖日版ナリ 家清息女法名舜松院殿 明譽壽光大  
姉ハ 東照宮様 御極君西郡城之松平之殿頭忠利室忠

房ノ母堂也志利ノ離別後京都養林庵ニ佛在任此成師  
病氣勢外素各城内ノ下向即此城内ニテ逝云 寛永八  
年三月末七月八日 杉平之殿頭志利室大炊介忠房母 安松院殿  
明養寿光大師 寛永八年三月末七月八日

水竹村

日宗清田安樂寺末寺領之在寺余

花林山家心寺

形原村

降寺系西流中嶋山家福寺末  
寺領拾貳石

龍田真如寺

五井村

降寺曹洞派大徳長共寺末領之石 龍田  
寺云在上五井村領之石及九節盛  
長建三七箇寺共之 寺 稱龍田山

長泉寺

三才六九卷中五井村有上中下三処中五井村<sup>示</sup>油<sup>示</sup>軒<sup>示</sup>之洛<sup>示</sup>淨<sup>示</sup>燈<sup>示</sup>用  
段五井為御油村其油造家辻宅於同圓吉田魚所<sup>示</sup>居<sup>示</sup>任<sup>示</sup>入  
杉平外記伊呂石塔 在境内伊呂ハ和泉守信光公ノ嫡男外記  
元芳ニ當<sup>示</sup>御<sup>示</sup>ヲ賜<sup>示</sup>シヨリ五井ヲ以テ稱<sup>示</sup>号<sup>示</sup>トス伊呂ハ元芳六代ノ孫  
ナリ慶長六年九月八日卒ス法名深久 悉三川<sup>示</sup>船<sup>示</sup>載<sup>示</sup>タリ  
因口採俗謗志口紀及湯<sup>示</sup>志<sup>示</sup>次<sup>示</sup>山<sup>示</sup>上<sup>示</sup>社<sup>示</sup>あり及九節盛長の  
靈と多<sup>示</sup>分<sup>示</sup>廻<sup>示</sup>胎<sup>示</sup>也<sup>示</sup>礎<sup>示</sup>と<sup>示</sup>形<sup>示</sup>と<sup>示</sup>何<sup>示</sup>も<sup>示</sup>有<sup>示</sup>り<sup>示</sup> 寺<sup>示</sup>名<sup>示</sup>何<sup>示</sup>も<sup>示</sup>も  
何れ<sup>示</sup>け<sup>示</sup>邦<sup>示</sup>之<sup>示</sup>礼<sup>示</sup>教<sup>示</sup>を<sup>示</sup>れ<sup>示</sup>ら<sup>示</sup>う<sup>示</sup>く<sup>示</sup>何<sup>示</sup>も<sup>示</sup>の<sup>示</sup>日<sup>示</sup>の<sup>示</sup>神<sup>示</sup>を<sup>示</sup>愛<sup>示</sup>入<sup>示</sup>ト云

三谷村

日宗口流五井村長家寺末領之在寺

光呂寺

牧山村

日宗口流<sup>禪曹洞派</sup>日宗口末領之石 本山五井村長家寺

光林寺

大塚村

釋宗曹圓流尾列知多影十見村就雲日未  
寺領五石 被列惣持年係未 三牙日之

家樹山長興寺

秘那尼寺依牌在境内 三川雀云丹野村領之德也侍之秋系  
當寺ハ奉治之時馬と繫した今も存ス

廣石村

淨土宗法興寺領石牧師堂善提所  
弟知恩院未号淨土院

淨土山長恩寺

三牙日牧野民部太史康成善提所

寺院寺後口關山流定利將軍尊氏後裔鹿苑院殿ノ淨寺ノ尊  
氏ハ自筆額アリ領七石九石

同日廣石村牧野民部太史康成善提所也當寺十二世  
家康上人 家康云淨土也 淨土山風景面白し孤峯蒼海入  
神鳴傳傳秘取信依久鳴響列浦々見元龜三年壬寅仲

冬甲別山縣之帝兵部昌景人數一百余ヲ奉母村若澤江初東  
之別ノ大介候出此寺陳取口三月廿日遠列味方系 家康云  
武田伝云ト御合戦信玄ハ極月廿四ヨリ天正元年癸酉正  
月六日と遠列形部村對陣口七日刑部村出陣三列野田村  
城之管沼新八郎定盛攻玉ト世帝伝云鉄炮ニ中玉ヲ世時山  
縣之帝兵衛大恩寺之寄侍也 西様不分明年号改元  
不知視タリ

大恩寺開山ノ晚上人 淨土傳統記云開山ノ晚上人聖蓮社慶  
善ハ和別人也階上寺尾祖西譽聖聰上人ハ信教沼弘経与弟二  
世任職後大恩寺ヲ建ス文明十五年五月廿日寂ス  
當寺十二世成堂上人ハ清康云弟三男ヲ則大神君ノ弟叔父之  
後大樹寺授玉ヒ十四世ノ任職タリ故ニ天下淨一統ノ後尊敬ニ  
カフ

寺元龜三年壬申十二月甲別ノ士山縣三良兵ノ昌景人數一  
万余人ヲ三品大物見ニ出テ當寺ニ陣ヲ取ル味方原佛合戦ノ取猶

居し翌正月野田合戦、信玄討死し、用て退去す、其市川前札ヲ  
出ス今尚當寺ニアリ

高札

大恩寺

一當寺甲乙軍勢於彼寺中不可濫坊狼藉若於省世台  
若可々行嚴科者也仍如件

元龜四年正月三日

山縣高兵衛尉

協ニ元龜三年の比ハ大概三及皆大神君ノ御手ニ属ス世邊ノ甲別勢未  
ルヲ不審且ツ當寺ノ甲別勢ノ説タルヲ諸託祿ニ不見當後人ノ  
考ソマツ

牧野家代ノ善書所ナリ天正十八年奥東沖入國ノ時牧野在馬丸  
廓成ニ野々大胡城ノ移ル故ニ牛久保ノ城郭ヲ大恩寺ノ寄附ス今  
本堂ハ牛久保城書院ヲ以テ建ルト云フ

三河雀ニ云ノ昔日延命推兵ノト云猿樂師塩濱寄附書今有リ  
此近所猿樂ト云取手ノ跡跡有リト云牧野當代々碑アリ

赤坂村

日原廣尾村大恩寺ノ手領武石五斗

三頭山長福寺

ニ牙<sup>ニテ</sup>云ニ頭山長福寺在赤坂西領ニ在五斗

在各地山之麓當寺境内山上有奇石名女帝石相傳曰昔世如歌  
有女名カ珠女與定基有契而絶不逢慕病遂死神魂化在  
大サ尺餘下窅高四尺許如假立而不知其深長幾等人試  
掘見根云云大餘未至其株而止焉與常別鹿嶋之要石形  
似而趣迥異松浦佐用帳大磯虎女中幸江南望夫石等比  
愛着女化石之類不少

怪妖故事談卷之四又奇疾便覽トモ云時珍カ曰人心ヲ專シテ癖

ヲ成シ及癡塊ノ病ニ凝結テ石トナリ干黃狗寶<sup>イヌノクマ</sup>鄭答<sup>カサトウ</sup>

ノ類ノコトキ皆諸ノ戦ノ病ナリ夫星隕石トナリ沙淋石淋<sup>カサキ</sup>及

秋願ノ説ニテ舍利子トナルヲ觀ルニ皆精氣凝結テ然リ故塔

物論ニ云石ハ氣ノ積ナリ群書ニ載所實圭石ニ化シ老樹石

ニ化スルカ如シ皆每情ノ愛異ナリ急蛇蝦蟹皆能石ニ化ス乃有



情ノ變異ナリ世説曰武呂ト云所負婦アリ山之登夫望  
化シテ石トナル世蓋志一シテ不<sub>レ</sub>分<sub>レ</sub>遂ニ每情ニ入<sub>レ</sub>宋史曰石工石  
ヲ采石坑ニ陥入ス三年ヲ経コレヲ掘出ス猶活セル人ノコトシ一ヒ  
凡<sub>レ</sub>見テ遂ニ化シテ石トナル世蓋石氣ヲ吞納シテ久シテコレト俱  
ニ化ス夫生歎猶全ク石ト化スルハ則<sub>レ</sub>頑心癡癖ノ在<sub>レ</sub>化スルモ亦  
其理ナリ程子遺書曰波斯國ノ人古墓ヲ掘テ肌膚ヲ見都  
尽<sub>レ</sub>唯心堅シテ石ノコトクナルアリ中<sub>レ</sub>開テコレヲ見ルニ山水アリ  
テ畫ノコトシ旁一<sub>レ</sub>女アリ欄<sub>レ</sub>凭<sub>レ</sub>凝<sub>レ</sub>啼<sub>レ</sub>ス蓋世々本山水ヲ愛  
スルノ癖アリ遂ニ形<sub>レ</sub>融<sub>レ</sub>結<sub>レ</sub>テ致<sub>レ</sub>テ如<sub>レ</sub>世宋濂カ云一僧アリ  
大般三昧ノ法ヲ行<sub>レ</sub>テ死ス後コレヲ焚<sub>レ</sub>唯心化セズシテ狀<sub>レ</sub>佛  
像ノコトシ金ニアラス石ニアラス又一人禪觀ノ法ヲ行<sub>レ</sub>テ死ス及  
テ火葬ス心内觀音ノ像ヲ包<sub>レ</sub>ニ悉<sub>レ</sub>ク貝<sub>レ</sub>一醫書ニ云一人癡  
ヲ病テ死ス火葬シテ塊アリ石ノコトク世皆癡癖頑凝  
シテ石ノ蹟ヲナス故倭コレヲ録ス

### 御油

日<sub>ノ</sub>系<sub>ノ</sub>西山<sub>ノ</sub>流<sub>ノ</sub>山中<sub>ノ</sub>村<sub>ノ</sub>法<sub>ノ</sub>藏<sub>ノ</sub>寺<sub>ノ</sub>末<sub>ノ</sub>馬<sub>ノ</sub>下<sub>ノ</sub>五<sub>ノ</sub>石

振<sub>ノ</sub>賢<sub>ノ</sub>山<sub>ノ</sub>東<sub>ノ</sub>林<sub>ノ</sub>寺

手<sub>ノ</sub>院<sub>ノ</sub>奇<sub>ノ</sub>迹<sub>ノ</sub>口<sub>ノ</sub>唐<sub>ノ</sub>蘆<sub>ノ</sub>山<sub>ノ</sub>ヲ<sub>ノ</sub>摸<sub>ノ</sub>寫<sub>ノ</sub>メ<sub>ノ</sub>寺<sub>ノ</sub>前<sub>ノ</sub>虎<sub>ノ</sub>溪<sub>ノ</sub>無<sub>ノ</sub>橋<sub>ノ</sub>世<sub>ノ</sub>念<sub>ノ</sub>也

### 八幡村

禪<sub>ノ</sub>系<sub>ノ</sub>曹<sub>ノ</sub>洞<sub>ノ</sub>流<sub>ノ</sub>尾<sub>ノ</sub>別<sub>ノ</sub>緒<sub>ノ</sub>川<sub>ノ</sub>乾<sub>ノ</sub>坤<sub>ノ</sub>院<sub>ノ</sub>末<sub>ノ</sub>領<sub>ノ</sub>武<sub>ノ</sub>在<sub>ノ</sub>石

大<sub>ノ</sub>廣<sub>ノ</sub>山<sub>ノ</sub>西<sub>ノ</sub>明<sub>ノ</sub>寺

二<sub>ノ</sub>牙<sub>ノ</sub>口<sub>ノ</sub>相<sub>ノ</sub>傳<sub>ノ</sub>北<sub>ノ</sub>条<sub>ノ</sub>時<sub>ノ</sub>教<sub>ノ</sub>入<sub>ノ</sub>道<sub>ノ</sub>法<sub>ノ</sub>名<sub>ノ</sub>最<sub>ノ</sub>明<sub>ノ</sub>寺<sub>ノ</sub>道<sub>ノ</sub>宗<sub>ノ</sub>暫<sub>ノ</sub>成<sub>ノ</sub>林<sub>ノ</sub>撤<sub>ノ</sub>傳<sub>ノ</sub>号<sub>ノ</sub>免<sub>ノ</sub>  
了<sub>ノ</sub>坊<sub>ノ</sub>後<sub>ノ</sub>建<sub>ノ</sub>當<sub>ノ</sub>寺<sub>ノ</sub>即<sub>ノ</sub>号<sub>ノ</sub>最<sub>ノ</sub>明<sub>ノ</sub>寺<sub>ノ</sub>永<sub>ノ</sub>祿<sub>ノ</sub>年<sub>ノ</sub>中<sub>ノ</sub>改<sub>ノ</sub>最<sub>ノ</sub>作<sub>ノ</sub>西<sub>ノ</sub>云

寺<sub>ノ</sub>院<sub>ノ</sub>奇<sub>ノ</sub>迹<sub>ノ</sub>口<sub>ノ</sub>乾<sub>ノ</sub>坤<sub>ノ</sub>三<sub>ノ</sub>流<sub>ノ</sub>大<sub>ノ</sub>素<sub>ノ</sub>流<sub>ノ</sub>也<sub>ノ</sub>口<sub>ノ</sub>北<sub>ノ</sub>条<sub>ノ</sub>相<sub>ノ</sub>摸<sub>ノ</sub>守<sub>ノ</sub>時<sub>ノ</sub>教<sub>ノ</sub>入<sub>ノ</sub>后<sub>ノ</sub>院<sub>ノ</sub>也  
其<sub>ノ</sub>年<sub>ノ</sub>數<sub>ノ</sub>覺<sub>ノ</sub>了<sub>ノ</sub>坊<sub>ノ</sub>ト<sub>ノ</sub>云<sub>ノ</sub>大<sub>ノ</sub>室<sub>ノ</sub>山<sub>ノ</sub>至<sub>ノ</sub>勝<sub>ノ</sub>地<sub>ノ</sub>也<sub>ノ</sub>建<sub>ノ</sub>當<sub>ノ</sub>建<sub>ノ</sub>立<sub>ノ</sub>有<sub>ノ</sub>永<sub>ノ</sub>祿<sub>ノ</sub>七<sub>ノ</sub>年<sub>ノ</sub>甲<sub>ノ</sub>子<sub>ノ</sub>  
今<sub>ノ</sub>川<sub>ノ</sub>氏<sub>ノ</sub>真<sub>ノ</sub>大<sub>ノ</sub>軍<sub>ノ</sub>ヲ<sub>ノ</sub>卒<sub>ノ</sub>三<sub>ノ</sub>列<sub>ノ</sub>ハ<sub>ノ</sub>出<sub>ノ</sub>張<sub>ノ</sub>發<sub>ノ</sub>河<sub>ノ</sub>先<sub>ノ</sub>降<sub>ノ</sub>軍<sub>ノ</sub>キ<sub>ノ</sub>ト<sub>ノ</sub>酒<sub>ノ</sub>井<sub>ノ</sub>花<sub>ノ</sub>子<sub>ノ</sub>  
門<sub>ノ</sub>尉<sub>ノ</sub>忠<sub>ノ</sub>次<sub>ノ</sub>ト<sub>ノ</sub>沛<sub>ノ</sub>油<sub>ノ</sub>東<sub>ノ</sub>臺<sub>ノ</sub>ニ<sub>ノ</sub>テ<sub>ノ</sub>一<sub>ノ</sub>戰<sub>ノ</sub>忠<sub>ノ</sub>次<sub>ノ</sub>敗<sub>ノ</sub>軍<sub>ノ</sub>先<sub>ノ</sub>手<sub>ノ</sub>六<sub>ノ</sub>十<sub>ノ</sub>騎<sub>ノ</sub>討<sub>ノ</sub>死<sub>ノ</sub>  
其<sub>ノ</sub>費<sub>ノ</sub>ニ<sub>ノ</sub>兼<sub>ノ</sub>テ<sub>ノ</sub>野<sub>ノ</sub>口<sub>ノ</sub>村<sub>ノ</sub>八<sub>ノ</sub>幡<sub>ノ</sub>村<sub>ノ</sub>城<sub>ノ</sub>ニ<sub>ノ</sub>板<sub>ノ</sub>倉<sub>ノ</sub>彈<sub>ノ</sub>正<sub>ノ</sub>日<sub>ノ</sub>主<sub>ノ</sub>水<sub>ノ</sub>兩<sub>ノ</sub>約<sub>ノ</sub>切<sub>ノ</sub>出<sub>ノ</sub>  
忠<sub>ノ</sub>次<sub>ノ</sub>ト<sub>ノ</sub>相<sub>ノ</sub>戰<sub>ノ</sub>危<sub>ノ</sub>所<sub>ノ</sub>沛<sub>ノ</sub>油<sub>ノ</sub>勢<sub>ノ</sub>山<sub>ノ</sub>下<sub>ノ</sub>原<sub>ノ</sub>助<sub>ノ</sub>林<sub>ノ</sub>孫<sub>ノ</sub>ハ<sub>ノ</sub>ヲ<sub>ノ</sub>催<sub>ノ</sub>シ<sub>ノ</sub>横<sub>ノ</sub>鎗<sub>ノ</sub>ヲ<sub>ノ</sub>  
八<sub>ノ</sub>寺<sub>ノ</sub>返<sub>ノ</sub>侍<sub>ノ</sub>如<sub>ノ</sub>ニ<sub>ノ</sub>島<sub>ノ</sub>康<sub>ノ</sub>云<sub>ノ</sub>佐<sub>ノ</sub>依<sub>ノ</sub>村<sub>ノ</sub>三<sub>ノ</sub>浦<sub>ノ</sub>尾<sub>ノ</sub>馬<sub>ノ</sub>妙<sub>ノ</sub>沛<sub>ノ</sub>攻<sub>ノ</sub>不<sub>ノ</sub>慮<sub>ノ</sub>佛<sub>ノ</sub>手<sub>ノ</sub>合<sub>ノ</sub>  
合<sub>ノ</sub>戰<sub>ノ</sub>沛<sub>ノ</sub>勝<sub>ノ</sub>利<sub>ノ</sub>有<sub>ノ</sub>板<sub>ノ</sub>倉<sub>ノ</sub>兩<sub>ノ</sub>約<sub>ノ</sub>討<sub>ノ</sub>死<sub>ノ</sub>味<sub>ノ</sub>方<sub>ノ</sub>ニ<sub>ノ</sub>テ<sub>ノ</sub>孫<sub>ノ</sub>八<sub>ノ</sub>討<sub>ノ</sub>死<sub>ノ</sub>七<sub>ノ</sub>子<sub>ノ</sub>ノ

本云所墓有此時西明寺住持軍士、齊若大出申傳世美  
家康云、開召寺領二十石、所寺附之最字ヲ西ト也、改布テ西明  
寺ト云

古老物誌 鷲塚味方原 本坂道也

住古北条相模守時、入道在宗、諸國軍、藪ス、免了坊ト号ス  
世大宝山ニ至リ勝地ナリトテ一字建立シ最明寺ト号ス  
之河雀ニ云、永祿七年、今川氏真大軍ヲ率シ三河ノ邊ニ  
駿及先鋒軍ト酒井石高尉志次ト所油ノ東ニ一戰志  
次敗軍及ニ六十余人討死ス其費ニ棄ル野口村ハ幡村ノ領  
ニ板倉澤正口ニ水西人功ク出リ忠次尚危カリケル  
所油勢山下係妙林孫ハ核塗ヲ入守リ返シケル也 神居  
佐根村ノ之浦ニ馬分ヲ所攻落シ不慮ニ世知ハ出馬有ケル故  
板倉及物終ニ討死ス味方ニモ林孫ハ討死ナリ世皆當面  
佐指是時ノ軍士、強ク奮ク出シケレハ 邪君大ニ感シテ  
寺領世知ハ世時所附ナリ世時ノ御書附、最の字と西と改

シヨリ今ハ西明寺ト書ト云リ

大江定基古墳

在當寺院内

據、是古カ壽永、菩提寺建立アリ

三乳

時頼入道古墳

在境内

最明寺敷ト号

初高系宗ニ云、時頼童名戒壽丸、正五位下相模守執持  
リ之在宗ノ時出タリ最明寺入在免了坊道宗之箇年一  
天下斗藪シ民ノ極邪ヲ正シ給フ豫倉ニ飯リ弘長二年十一月  
廿二日薨ス、和之十七

東鑑ニ云、弘長三年、癸亥十一月二十日戊刻入道云 位下

相模守平親良時頼 所法名道宗、平年二十七年、於最明

寺北亭ニ卒云、シヨリ 所法終ニ儀著衣裳、上繩床、令

坐禪給禱ニ、每動、指之氣頌口業、撞高懸、二十七年一椀

打碎大道坦然 弘長三年十月二十日道宗珍重云

當寺定基時頼ノ墳在之、不審之、又開基ト定基ト謂

開山ハ大素ト有リテ不<sub>レ</sub>一定、後人の考トアリ

口村

口京口派西明寺寺領五石七斗

國府莊山園分寺

國史略十一卷聖武帝天平九年每國造寺分寺光明寺后  
素好佛常勸聖武帝每出造寺分寺

聖武帝曰天平十九年十一月己卯詔天下諸國別令

光明寺法華寺具令光明寺各造七重塔一區並寫

金光明經一部各置塔裏云云天平勝室元年七月定諸

寺墾田地令光明寺一千所法華寺四百所云云諸國

分年每二月從八日十四日迄轉讀最勝五經受神護景雲

二年制衣せり

寶龜三年十月詔曰云云宣於天下諸國分寺每年正月一七

日之間行吉祥悔過以為恒例云云

詔詞解五卷廿八云著案式云凡諸國分寺依俗尼見教每

寺起正月八日迄十四日轉讀云云

財賀村

真言宗古義紀及高野山平等院末  
行基原基寺領石六十二石号勸学院

陀羅尼山財賀寺

山上在靈光山極樂寺跡

之才口領石六在石及九師盛長建之也

之才口力珠山古張寺在財賀村力珠女葬屍於此夫大江

定基道世各寂照法師而後渡天竺登清靈山焉力珠

女現文殊菩薩云云

大般若經當云八各郡下置村在門右又義慈應永十一

年寄附之云云小攻井村知是社名礼前日世經と轉讀例

拾文

補相口知尊千手觀音行基作印堂觀音七八部衆上

アリ丈二尺余宛舍佛師作云慈守ノ社ハ古田城之牧野古

化建云云每年二月十五日念礼神のアリ當りハ永祿七年不多也

一宮筑城ノ暇今川氏直攻之相君侍後援アリ其時觀音ノ祈

永三傳より其利有るに寺領ヲ初世古大江定基三河ノ刺史  
又ハ殿平尾ニ伝ス赤坂ノ宿カ寿ト云愛妾ヲ迎フ世女早世ス  
其骨ヲ以テ文珠ノ像ヲ彫刻シ當寺ニ納メカ寿ヲ舌シウツ  
メタリト云カ寿山古根寺トテ境内ニ文珠堂アリ  
其後造營の奉行ハ梶原平三景時ナリト云アリ世寺ノ峯ニ靈光  
山極ホ寺ト云四跡アリ

三河雀ニ云永保十年三別一宮ノ城本多石助信俊ヲ籠置ル  
今川氏貞一万余ノ人数テ一宮ノ陣寄攻戦ノ後後籠城危カ  
リニ神居三千人テ一宮佛後詰アリ佛殿陳ノ時今川勢  
佛跡ヲ慕ハシ欲ト佛思慮アリ千両村ヨリ財賀村ヲ極ニ  
佛坤ノ萩村ヨリ赤坂ノ山手廻リ長沢ハ也帰陳ナリ是リ一宮  
佛還ト申ナリ

世寺當寺の寺僧等佛新念奉申尚佛道志々ト傳  
改メカ今寺領ト稱ナリ  
一カ壽山古根寺 相傳口カ壽娘丈定基ヲ慕フテ

夜々空中ニ定基ノ名ヲ呼フロアリ後世山ハ二路ケルヲ人  
アハシメ彼古ノ塚メ寺ヲ建ヌリト云又カ壽菩薩ノタメ文珠  
菩薩ノ像ヲ彫刻セシト云アリ  
三河雀ニ奇怪ノ説ヲ奉タリトイハレ信用ニ難キ故ニ世載  
セズ〇世堂今ハ財賀寺兼帶寺ニ  
三才湯舎ニ云カ珠女蘇屍於世中畧カ珠女現文珠菩薩云

萩村 禪宗曹洞流尾州諸川乾坤院未  
寺領拾石 尾山周鼎秋尚 虎岳山龍源寺

伊奈村 日宗日系 如安源彼寺廟所  
寺領拾石 尾基 禪院秋尚 万年山東漸寺

如安助右丈忠俊墓 在境内 永保七甲子三月四日卒

龍瑞院賢峯壽德居士

口内室墓 日上 天文九庚子三月八日卒 清徳院容智園大師

口息修理亮 初彦八郎 光次墓 天正八庚辰正月廿日卒

惠光院源清善堂居士

口内室墓 天正十四戊午 七十六卒 曜蓮院

### 平井村

淨土宗徳西流吉田惟高寺末  
黒下 四石五斗

惠止山延命寺

### 口村

徳西 坂田公時寺印之 兼源如末之寺

坂田山東林寺

寺記口原頼光卿四天主攻田公時カ寺本尊ナリ寺前住末  
ノ取爰ニ所ノ下ケサ六取覆ス故ニ今堂ノ向ヲ替ル具後障  
ナシト 三才舎書載之

### 下井村

禪宗曹洞派深津村本光寺末  
寺領三石 尾基明全和尚

通口山滿光寺

寺院寺記口滿光寺ノ此子村ト有下井繩手ニ本寺豊後寺廣孝亡三歳  
ニ今川軍安上一戦ノ討死

### 横須賀村

口内口流下五井村滿光寺末  
寺領二石 天主社領内 配分

大慈山勸音寺

### 下地村

高田系勢別一身田舎修寺末  
寺領五石

聖靈山聖眼寺

補杉田 邦君吉田小原肥前守ノ攻撃之時大子ノ祈禱ニ仍リ勝利ニ由リ  
甚節位持ノ殿ヲ五ノ大子雲ノ小笠原山城守在城ノ節位營

### 篠束村

禪宗曹洞派古宕花井寺末  
寺領五石

天久山殿國寺

牛久保村

津久保西流廣石村大恩寺末  
寺領地所在

法幢山上三石寺

宮嶋傳記曰法幢山上善寺始ハ天台宗後津久保村定善  
寺ヲ移真木越中守定善建之昔ハ知恩院直末寺也長祿佛降  
ノ節本寺使僧ヲ寄ラレシ具状ニ 為所傳之傳見録然使者  
差遣ハ自然於運る者馳之所委細以上ニ申付ル事不能  
詳ハ恐々謹言 三月十九日 知恩院 定善寺侍者中

口村

津久保

花井寺

密證記曰天正年中吉田ノ城ヲハ酒井元三門忠次守護ス云ルニ依テ  
家康公折々入御軍ノ御評定杯有ケルトフ或時津鷹ス入サセ  
至ニ田面ノ賤男女ニモ御言葉ヲ被下スヨリ牛久保ノ稲場ハ出サセ玉フ  
爰ソ何ト申ソト出ルアルハ星野ノ長過田ノ果馬ノ口ヲ取テカラ代  
繩手ト云々ヘケル佛殿煉スクレテ内ヨリ銀錢取出サセメマヒ

口村

口家口末寺領八石ハ半  
牧野右馬允ニ所

法月山光輝寺

又是ヨリ曰ヘリヲホツタニ龍牙院ト云禪林ニ入セ玉ヒ寺中ノ冷泉ニテ佛手洗  
ヲ結セ風興アリハシケルニ時シリカホニ橋ノ花咲乱シケル花井寺ノ水トコフ云ヘケ  
レトタムシモヒ又佛代流伏見ニテ佛末下頂戴の飯花井寺ト遊シ下サレ  
ケル  
口家口末寺領八石ハ半  
牧野右馬允ニ所

口村

津久保  
一色殿菩提所云傳永福六癸亥年  
彼下十月十日上總外直徳文  
牛頭山大聖寺

口村

津久保 娘殿寺末

南岸山東勝寺

長山ニ春虎ト云道心者田ヘリノ畑ニ住居ス大凡ソ願テ人々永

荒地の窟と造定永年中天下一名寺社淨改在之且南  
名山集勝寺と改定保色書上

口村

一向宗也昔牧野の柿原温石寺ト云  
自唐也ト云或云牛久保君子ト云格久石  
ト云百姓の別也吉良の法野慈光寺且佛より後法信ト云  
寺号ト付久石子惣云馬君子ト云久石寺ト云世帯ナリト云

口村

一向宗吉良ヨリ来レ度長九年彼山門  
佛書吉良東条の法寂言叟ト在リ  
台比山淨福寺  
同年長山村吉本帳之寂言其後定永の永水帳淨福寺ト在

口村

一向宗  
大子山養樹寺  
淨宗昔ハ城ノ近処馬出ト云妙  
の廟所在  
松色山了圓寺

口村

口村

淨宗昔ハ城ノ近処馬出ト云妙  
世寺在ト云牧野の法寂言叟ト在リ  
武山 長谷寺  
馬頭觀世音 内代長谷木ハ在馬建之ナリ

口村

世帯ハ牛久保浪人水野權之助建之ナリ但し庚申嘗元禄年中  
寺号山号禪ト云成  
政直山康申寺  
水野權之助豊川領之ハ十郎ノ子也後牛久保ニ穿人ス

口村

黄蘗宗  
補陀山善光寺  
永禄年中知仙法師建之ナリ

古高村

禪宗曹洞流豊川妙嚴寺未領於五石  
兵部東嚴文兼和尚  
松野山花井寺  
寺号口松樹山花井寺在豊川村寺領於五石

取井塚 當村在り大江定基召仁ノ女花井岩 取井ト云三人ノ尼  
トナリ死後世如ニ埋ム地藏堂ヲ建ルト云 取ニ花井寺ニ是故アル也

# 大木村

字 ナニテ 鑓水山西漸寺傳口境内ニ水

## 鑓水山西漸寺

一時弘法大師来以所携湯杖穿地則忽

涌清水ニ云蓋鑓俗鑓字山号用之未ニ番

寺院奇境口弘法大師行脚時世寺テ水ヲ乞テウツ地水乏世少奉  
大師錫杖以地穿王忽鑓突様清水涌出ス其後法然上人斗教  
時世寺有四十八夜上人櫻枝逆指テ生キ付逆櫻花有

西漸寺 無縁洞山弘法大師

三河雀云弘法大師行脚ノ時世如テ水ヲ乞セモヒケルニ地有り彼カ曰  
世如ハ水乏シトテ少シ許ヲ奉ル大師湯杖ヲ以テ地ヲ突玉ヘハ鑓ノ  
ツク如クニ清水涌出タリ則是ヲ鑓水ト云山号トシケリ  
三才多會 南無因法等ニ世事ヲ奉リ蓋鑓ノ字ハ俗ノ鑓字ナ  
リ山号ニ用ルルヲ不審ト謂ヘリ

按ニ山号ヲ音讀ニスル故ニ不審セリ土人傳フマウニマリミツ山ト云  
ヘリマハリ林訓讀ニスヘシ花井寺 坂津寺ト云カ如シ刺國  
語ハ鑓ト假名ヲ添タリ誤ナリ世字ニ音ハ有ヘカラス詔用  
集ニモ云鑓地物日本制也 文和元年柳正俊用之而得画  
字ニ亦使柳家所制也

又口徑讀ニ書郡 吉祥山邊ニ三河三水ト云各水アリ所謂  
今水 遺水 吉水ト云今水ハ伊奈木村ニアリ遺水ハ大木村  
ニアリ吉水ハ吉祥山ニテリト云ヘリ然レハ世号モ遺水山ニ  
テ金ニ双ルハ後世附會セラルル也

字作天眼山

# 豊川村

口富田流を引渡松善候寺末  
寺領置れ石瓦基奈海北尚

## 圓福山妙嚴寺

字 才 或 拾 五 石

神杉 宝曆の頃ハ吉田領西真村の野狐豊川村妙嚴寺境内  
平八狐の塔ニ成ヌル進婚入ノ夜ハ西嶋ヨリ豊川迄の路路相明ト  
取石焼シタル如ク奈然タリシト記顯シ又テテ奈諸不絶心靈驗新



ナリト云狐狸ノ所為タルヘシ

追加妙嚴寺境内平八狐ノ事靈驗ヲ今イナシレシ文政十一年  
の頃稻荷尾屋有リ群集ス兩度迄燒失ス猶以前ヨリ造營  
活リ各凡彫物具外社頭一切信引諏訪ノ上ニ和四郎造之  
事也此者當時日本無双ノ沙汰スル故ニ任文セント欲シ赴キ  
其三日以前引合締テ受合タリト答フ是平八先カケタルベシト云  
ツ巻ク由其普請出来アカリ赤銅尾ニシテ諸材彫物等目ヲ  
驚ス願成就上三百一疋ヲ納ムト云

凡國々形佛ヲ持有トシ赤泊群ヲナスフアリ當否ニテハ元  
禄宝永の頃三度形觀喜ノ諸人群集ス云何時冷靜タリ  
其後平井村某師白鳥村地花杉山村大目ト彼方世方ニ時花  
佛アリ幾夜ナクサヒタリ

### 豊川村

禪宗曹洞の流遠及廣相傳の故寺也  
手願の塔石  
龍雲山之明寺  
御宿當也百天ハ宿昔大江定基妻カ寿摸像ヲ表シタルト云

尊姿艶色ニテ裸形ナリ毎年正月十六日有完扉御衣ヲ改メ奉  
獻名高キ尊躰ナリ

本尊辨才天女ナリ持玉フ所ノ琵琶定基所持ノ各弦ナリ  
ト云傳フ

此像御長常ノ人ノ如ク和ノ服ヲ着シ玉フ諸願アル人寄進  
ニ依テ時々是着替ヘルナリ左ナク凡四五年月目ニハ必ス住持  
ヨリ改メ替ルナリ其面容佛像ニアラス殊ニ和製ノ服ヲ用  
ユルノ不審ナリ熟々按ルニ是レハ此寺一尾基之時定基  
カ珠女ノ像ヲ彫刻シテ此寺ニ納メ置キ玉ヒケルニ後人誤  
テ辨才天ト心得ヘ宝冠ヲ添テ天ト称セシナラン定基秘  
藏ノ琵琶ヲ持セルト云和製長ノ服ト云面容ノ佛顔ニ非ルト云  
旁決テ天ノ像ニハ有ヘカラス能心ヲ付テ可拜正七月十  
六日近由ヨリ群集ヤリ靈發を云シ

寺院奇談曰天女畫跡正七月十六日尾隈

水野八十郎墓 当村ノ任人悪人ニテ下人ニ弒セラル今此

墓時々火燃ル一十世人ノ悪行此邊に牌三種々言傳ルナリ  
○諸國古墳墓ニ火燃ル一多し近クベカラス人ノ精氣奪フ  
本草綱目ニ云田野赤火人及牛馬死者血入六年久所化  
皆精氣之極ル也其色青状如炬或聚リ或散シ未通奪  
人精氣但以馬鏡相憂作聲即滅ル云

長山村

俗中長山ト云  
同宗日流伊奈村岳衝古末  
寺願抄記名

本宮山松源院

東上村

日流日流長山村松原寺末黒下ニ名  
後彦坂九云信定次高所  
産坂信河更郡大津村ニ載ス  
大塚 日新橋河切通ト云所ニ五橋ノ石塔アリ故不知  
露塚 日村ニアリ今ハ荒神塚ト云 二葉松口篋棟明神ノ由縁ナリ

加葉山妙劉院

鴨谷村

作子  
經宗寂室流近江五言野村水原寺末  
黒下四枚石 眞平表作寺代 辨龍山耳泉寺  
碑アリ

身口江及寂室流之小卒也 身院意後日之  
神杉長篠合戦 眞平九八高信品ノ長子并法右衛門因之上位  
長ノ合戦ノ換儀ノ昔ノ弟ハ特敵軍ニ兵捕城門ニ籠ル碑源  
上信長具忠信と感し當年ニテ吊祭ス法名智海常通居士  
長篠医王寺ニモ碑アリ身井ノ一子孫千代眞平氏和列郡山  
城ニナル時弟地千石ヲ與ヘル有海村跡在焉ト云者宅地墓  
アリ在世ノ形ヲ彫刻ス

長者平村

日流鴨谷村耳泉寺末  
黒下千石

心眼寺

田系村

日流日末  
黒下武石五石

惣持寺

日村

日家  
黒字 砂石

東光寺

和田村

榊家 關山 流系 郡 ぬら 幸来  
黒字 砂石

正傳寺

丹野村

丹野 清雲  
今ハ七ツ 丹雲 在シ山ヲ 丹雲 山ト号ス 是夜九  
市 盛長カ 建立セ 七雲の内

依根村

依根 刀 祿 支 隊  
二葉 杉 後 号 以 後 八 兵 千 龍 長 祿 討 死  
貞平 九八 節カ 力カ 之 當 村 大 書 組 依 根 常 尼 妻 祖 也

西京村

常心院

寄 藤 翁 曰 之 河 西 京 村 乃 大 江 定 基 公 臣 子 也 乃 尼  
多 引 之 西 京 之 里 亦 唐 也 乃 且 以 之 常 樂 院 名 存 之 定 基 公  
也 折 亦 少 引 之 世 唐 亦 多 依 根 也 乃 且 以 之 瓦 尼 清 所 之 云 け  
リ 定 基 之 名 也 乃 且 之 河 竹 之 公 臣 子 西 京 村 乃 推 基 也  
之 竹 之 今 乃 常 心 院 之 所 也 乃 且 以 之 常 心 院 名 存 之 定 基 公  
の 志 向 之 竹 乃 御 所 也 乃 且 以 之 常 心 院 名 存 之 定 基 公  
稱 之 乃 農 民 今 西 京 之 竹 乃

西 京 之 柳 之 歌 之 彼 尼 之 乃 乃

まゐの柳の枝の糸よとれそ 柳のまぬまやりの糸の糸

八名郡

赤岩村

無名古史列記高野山平字院未  
寺領在石寺法院中興果澤  
大日寺隆元福十年丁丑相月文化十一年乙酉二十一年戊辰

赤岩山法言寺

神郷村

禪宗園山流高山村正字寺未  
寺領在石 繁宗和尙

湯玉山東光寺

長谷村

日家寺未  
黒字寺名

長谷山拾輪寺

牛川村

高田家山寺村正字院寺未  
黒字寺名

心入寺

日村

禪宗開山流嵩山村南高寺末  
里下之石

東林寺

高井村

日家日末  
里下之石

五龍山慈雲庵

日村

日家日末  
里下之石

長谷寺

和田村

禪宗曹洞流豐川村妙嚴寺末  
寺領之石 渡辺山城智光社廟所

石津山春興院

長樂村

禪宗開山流嵩山村西家寺末  
里下之石 門一石 寺末

龍尾山長樂寺

日村

日家日末  
里下之石 寺末

宗榮寺

山音村

曹洞流寺領拾九石  
寺日之

万福寺

金田村

禪宗開山流嵩山村寺末  
寺領之石 石寺領田

正明寺

波上村 一作止

日家日流系都妙心寺末  
里下之石 高師氏建立

瑞福山正圓寺

嵩山村

禪宗開山流系都妙心寺末  
寺領之石 西師孫高師建立  
寺末 寺領之石 在 廣唐經山寺 作寺 寺院 寺院 日之

嵩山正圓寺

月谷村

日家高山山系寺末  
馬場石

月谷山一福寺

馬越村

日家日末  
馬場石

日光山法蓮寺

中野利村

日家菅洞流大洞多就流末  
寺領十石在日家寺園和向

乳峯山慈廣寺

日村

高家古史紀創高野山平宮院末  
寺領五石在 寺日之

奥貴山石賀寺

日寺隆 萬徳二年庚午十二月廿日文化十四年三月  
二十八年三月成

庵系村

高家古史紀創高野山平宮院末  
安於丹波之馬場田石在

松陽山石賀寺

下吉田村

倭家古史紀創高野山平宮院末  
可勝寺末寺領之石

青龍山滿光寺

渥美郡

吉田

淨土宗法西流系都多恩寺  
寺領中在境内一百坪 寮舎十二所  
二寺曰之

孤峯山悟真寺

寺院在法口水野前布護署三十在淨喜所寺内一百坪 淨隆地

以新

禪宗曹洞派尾別大草福藏寺  
寺領並在右在 寺領界在御念寺

吉田山龍祐寺

神松口涅槃繪大幅 牧野古伯母雲寺附  
佛舍利一粒 天竺阿音玉三り 傳來

石佛庚申八是ハ宮系三別在田に之より時築山の石夜々光と放つ  
依之彫刻せしを一ハ庚申に之ありと云  
神紀白龍の子是ハ宝曆十一年申宮修造、村本見三郎指す

長老妻赤村山中ニ捨多ク寫キ一石の如し戦の雨ニサレ硬タル  
世肌滑ニシテ全弊無ナシ長二尺斗ナリアリト云

日新

日新日流  
寺願武持石

今橋山興徳寺  
一作福

吉田

天宮系赤叡山寺院号赤令院  
陰地ニ在リ石六斗半畧山重信法師

白雲山神宮寺

日新

一向宗系中頼寺樹新故寺石  
毎印地

西望山誓念寺

塔頭五ヶ寺 應通寺 仁長寺 正琳寺 蓮如寺 淨田寺  
悉如頼寺於此可合見

日新

浄土系慈西流日新信吉寺末  
馬市石

每量山光明寺

日新

日新日流  
馬市石

照照山東光寺

下地村

高田流寺願十五石  
并日之 再基慈光大師 當宗系山  
行圓上人 塔中武持寺 祐多坊 真光坊

聖靈山聖眼寺

抑當寺仕昔ハ慈圓大師臣創ノ淨地ニシテ台嶺ノ遠支ツ探リ横川  
ノ清キヲ汲ミシ一梵刹ナリ高田系ノ臣祖親書上人東関ヲ出テ  
花洛ニ假ルサ暫當寺ニ揚リ停マフ時ニ當寺の任職行圓上人  
一向專修ノ易行ハ未代應機の法ニシテ常波ノ凡愚ヲ救フ足  
リトテ忽宗ヲ改メ親書師直教の法ヲ成ル物ニ直旨面  
授ノ旨トシテ六字九字十字ノ各号ヲ真筆ヲ下シ五ニ彼ノ三件  
各号ノ胸ニ畫エ令テ弥陀釈迦尊像具外ニ三國念佛  
傳來ノ祖影ヲ繪シメ殊ニ上人ノ真影ハ自佛筆ヲ深クトナリ  
尚又師弟第樊ノ印末世ノ龜鑑トテ佛後二行ニ行内行



光師資ノ取像ヲ畫シメ行内上人ニ是ヲ給フ安心授受  
ノ事題ノ光明品ト号ス亦未今ニ寫龍相兼シテ淨土宗下野  
流ノ宝地ナリ

寺院奇蹟曰清康云伯父松平内膳吉田城ニ牧野信成傳次新  
藏兄弟四人逆心企候故兩將傳出馬侍藏大河ヲ越橋ヲ引落  
船ヲ打破韓信カ囊砂背水謀ヲ以テ味方ヲ死地ニ落毎ニ合  
戰持シテ清康云各お成本陣糠塚ニ敵備ヲ御奈河  
岸敵追靡給フ故城ヨリ敵ノ妻子向河岸へ集リ出テ啼  
悲ム故牧野軍勢妻子心引レテ一戰弱ク不殘或ハ川ノ流レテ  
死伊奈村領之申彦彦八郎世時吉田先年ヲ致清康云佛飯  
陣節伊奈村、出馬入彦八郎則伊奈村ノ花ノ池水葵三  
本佛酒肴兩種ヲ清康云、獻上牧野ハ團ヲ落テ一宮ニ  
退ケリ

聖徳太子嘗 別當ニ名置ス由丈四尺十六歳係自作の靈像ナリ  
永福七甲子年當年十二代行實上人ノ由 大慈大祐在兵ヲ佐シ

口圓牛窪ノ城ニ牧野在馬乞保康成ト番議シテ軍ヲ督ヒ兵ヲ進  
メテ吉田ノ城ニ大原肥前ヲ誘突テ攻メテ了時寺ヲ由陳所トシ  
玉ヒ寺中聖徳太子ノ高殿ニシテ東畧西伐ノ丹祈ヲナシエフ或夜  
佛夢中ニ忽雙扇ヲ感得シエフ佛奇瑞アリ又ヨリ一扇ヲ以テ  
御馬幟トシ一處ハ當寺ニトメテ靈宝トナサシメエフニ  
據ニ此合戦ハ永福七年五月十三日ト六月十四日トナリ何時感  
得シエフヤ不知悉ク三川堤ニ載ス可俟見

相田村

淨土宗慈西流信公寺末  
黒布部在

在象山清保寺

口所

千間馬場地  
禪宗曹洞流龍指寺末  
黒布部在

日東山西光寺

口所

新鏡所内地  
日東山内流  
黒布部在

兵腹山喜見寺

曹子所妻相田地  
日新  
黒市古石草

榮山華院

花清村  
日新日東  
黒市古石

橋地山正林寺

小池村  
日新日東  
寄附田古石平七合  
中道古石列立園所

塩満山湖音寺

橋良村  
日新關山流嵩山正古寺東  
黒市古石

龍洞山正光寺

小濱村  
日新日東  
禪家關山流中松系東觀音寺東  
黒市古石

寶樹山正福寺

牟良村  
日新日東  
黒市古石

瑞雲山真福寺

日村  
高云家古長赤石村法云寺東  
寺領古石 古石ヒアリ

西福山坂津寺

日村  
禪家曹洞流古田部古寺東  
黒市古石

玉龍山樂法寺

草洞村  
日新日東  
黒市古石

松嶽山大意院

二連木村  
日新日東信長松下金久院東  
寺領古石在七斗七東 巨雲売南祖高  
松平丹波古石殿所  
仙寿山金久院

印子天テニテ余觀音 巨祖舜玉禪師勢別未宮ノ節得ル知ナリト云

### 日村

禪家系於赤福寺未正保四丁亥建三  
喜附田十益系氏山城守以来代ノ庭所  
寺院奇後口吉田百石 寺系を別山別毎年加助  
万年山際濟寺

### 二川村

日家曹洞流を別口波加美増法寺未  
黒石即石  
寺院奇後口大岩寺中黒石寺 地名傳書アリ  
二川山松音寺

### 雲谷村

高云系法義紀別高野山平等院未  
寺領百石 尾基化積上人 文治年間  
不動尊 師丈ケ六尺寺  
舟形山普明寺

寺丈二口尾基 行基菩薩 後九帝盛長再興  
御杉口當寺ハ人自四代帝聖武天皇勅ヨリテ行基僧正  
同基アリ 文治の頃住持化積上人ハ尾馬頭義能ノ舎弟ニ

ニテ在大將頼朝卿ノ叔父アリ依之文覺上人院宣頼の時當寺  
止岩平家降伏の祈禱ヲ上人ハ頼朝時ニ不動尊ヲ頼朝卿の  
成長ケ彫刻ス於今護摩堂の本尊寺也  
補杉口行基院系院 花生寺等アリ堀出スト云

### 中原村

禪家曹洞流吉田院指寺未  
陰地六石四斗ニ事之合  
三岩山系中寺

### 高足村

日家關山流中松系東觀音寺未  
寺領八石  
清源山圓通寺

### 日村

禪家關山流中松系東觀音寺未  
寺領三石斗内即石ハ円通寺松石内  
一石斗内即石ハ一作二石斗内通寺一石  
斗 如神  
高足山世系雲院

野依村

日家日家  
黒字之石

女林山馬山寺

日村

日家日家  
黒字之石

陽光山東雲院

大崎村

日家曹洞流何家村東漸寺  
黒字之石

大崎山江福院

日村

日家日流中流村長田寺  
領之申流氏家附田也

海雲山龍源寺

津村

日家園山流寺經心寺  
寺領之石在再基大境禪源

長松山太平寺

大津村

日家日新太平寺  
寺領之石在但湯赤不動拾部石余音

天香山桂昌寺

日村

五寺日家太平寺  
内談

寺名 天江山禪雲寺

寺名 慈野山高養寺

四斗 聖谷山慈徳庵

寺名 金福山大雲寺

六斗 萬葉山多開院

松山村

禪之曹洞流吉田院在寺  
黒字之石 再基列如和尚

和泉山長慶寺

日村

日家日流以古村御海院  
黒字之石 再基横外惟後和尚

龍香山金福寺

長仙村

高僧不世也 秀於仁和寺末号松雲院  
寺領之石 太平年間建之 居奉行卷  
菩薩一作七石

東高山長仙寺

根田村

禪宗曹洞流 康信法寺末  
寺領之石

龍口山光福寺

松本村

高僧不世也 建別摩河板寺末  
寺領之石

久富山松本寺

青津村

禪宗曹洞流 久保長豐寺末  
寺領之石

愛田山信法寺

新美村

高僧不世也 別一寺田寺修寺末  
寺領之石 寺在新海村

之雲山西光寺

添田村

禪宗曹洞流 康信法寺末  
寺領之石

正樂寺

日村

日宗日末  
寺領之石

大業院

田原

日宗日流 久保長豐寺末  
寺領之石 再卷天庵和尚

藏中龍門寺

日所

日宗日流 大洞寺 院末  
寺所田城之宅 氏菩薩所  
院末 院末 院末

梅坪山靈岩寺

日所

曹洞流  
領部之石 寺日之

惣持院

日新

法善寺  
寺領十石

法善寺

日新

禪曹洞  
日新日流大久保長興寺末  
寺領五石

田原山慶雲寺

日新

淨土宗慈西流江戶坊上寺末  
寺領五石

辨天山城守寺

日新

蓮宗遠別吉原村妙之寺末  
寺領五石

真淨山常行寺

加治村

高田系新原村四光寺末  
寺領五石

馬山淨光寺

大久保村

禪宗曹山流大久保溪流末  
寺領雲山  
寺領石在輪番地尾基春山和尙

雲龍山長興寺

野田村

日新日流三津傳法院末寺領拾石  
一作吉野村傳法寺

竜谷山運昌寺

日村

日新日流  
寺領五石

橋田山宝雲寺

日村

日新日流  
寺領五石

陽田山法光院

日村

蓮宗系別吉原村妙之寺末  
寺領五石

柳橋山法善寺

日村

淨土宗依之木上宮寺末一作春高揚變寺末

白雲山西園寺

野田村

三八設乐郡野田

寺領二十石

大洞山泉龍院

三才十五葉口龍溪院長興寺泉龍寺右三箇寺共尾山茂林上人泉龍院每夜養女米尾山之前受禪法解脫三業業火現本形大蛇入貝鞍洲具舞三牧於今藏當寺埋具地建寺号泉龍院

日村

日家口流那寺村中院寺末一作古田振言寺

那林山安樂寺

芦村

禪宗曹洞流寺領三石

心光山長樂寺

島村

淨土宗慈西流寺領三石

清涼院

山田村

天台宗江加敷山末寺領百石七石半寺領百石七石

吉祥山泉福寺

五十子村

禪宗曹洞流西切村常光寺末除地五石

瑠璃山圓通院

日村

日家口流除地五石

白龍山溪泉寺

堀切村

禪宗曹洞流遠列溪松常海寺末寺領百石七石半寺領百石七石半寺領百石七石

松雲山常行寺

御指和地匠也等

大般若經有り

本常事仲前長

大夫坊元恒書字

之経阿りし

和地村

日家堀切村常光寺末  
寺領之石

合別山法藏寺

赤沼塚村

日家日流  
寺領之石

大光山金剛寺

高杉村

日家日流並別漢松普濟寺末  
寺領之石

龍桶山法藏寺  
瀧涌山 院

赤沢村

日家日流田原池門寺末  
寺領之石

大圓寺

小杉系村

禪系關山流系松妙心寺末  
寺領之石  
辛卯 六十九年十一年有得沈香木於漢網若行甚菩薩以彫作

小杉系山車觀音寺

觀音像毎年二月初十日群集之初為高云云後成臨海流  
禪

補杉口當寺之俗ハ仕古行甚傳正行怖之皆靈爰之依く海中ヨリ  
網ヲ引上ル沈香木以之彫刻アリ天佛ナリ毎年二月初十日  
系詣群集ス當寺ハ 神君之河津在城の時ヨリ神怒爲有  
り天山中織田信長横死之時 神君系別塚之津彦信長之妻  
より神幣浴アリ世傳取々擾亂し野末之宮横行ス故に閑道  
ヲ廢ス當寺ハ入御世所ヨリ蒲船奉來遠別漢松奉還御彼  
由緒ヨリヨリ三月廿日遠別町縣府宝是院ヨリ門主宮口  
拾ナリ

寺院奇詭曰昔漢獵之網伽羅各末引揚行甚菩薩觀世音  
彫刻シ五ノ実之靈驗無計佛衣木殘蒲結有諸水一滴之佛衣  
木不受之不思儀之上、初十日國民群集散棧石石納領百石  
合テ三百石余也始真言後臨海流



設樂郡

門谷村

寺領千言五在石頭密西宗院世初寺

天台真言兩宗頭二院衆徒十一方

煙蔽山鳳來寺

天台學頭 杉高院 等學院 不動院 岩印院 般若院

真宗院 悟通院

真言學頭 醫王院 一乘院 法華院 日輪院

藤印院 山栴院

古秋名蹟跡：此久可合者

長篠村

禪宗曹洞流大洞村多乾院末

除田水田寺千步

長篠山醫王寺

寺院寺院寺領水田與平信呂在城ノ傳寫所寺寺大通寺城ノ四可有  
武田四良勝賴長篠合戰ノ本場也身居強右馬勝高長篠ヲ討死  
法名智海院常備 此寺ニ碑在ナリ

下田村

日宗日流仁運本村金久院未  
寺領五石

喜連山長養院

半原村

寺領部在 寺日之

松陽山洞雲寺

津貝村

日宗日流志別部城高寺未  
寺領拾五石

白鳥山金龍寺

谷倉村

日宗關山流吉良島山村花院未  
寺領拾八石

大飛寺

大和村

日宗日流系於妙心寺未  
寄附日之石菅沼氏九石九

慶雲寺

明前村

日宗日流吉良島山花院寺未  
寺領七石

龍安山塔瑞寺

大洞村

日宗曹洞流大洞龍溪院未  
寺領部在名輪寺在山門寺法高

大洞山泉龍院

希声

琴室 光國 三流アリ

寺院音院日野田村寺領部在名曹和日野田之寺之大洞村泉龍寺又  
諏訪村庄小本寺也希声琴室光國也三流ヨリ大洞當寺ノ輪番  
相勤音禪始女住夜々出庄山禪法請三熟業火解脱本  
秋ノ現レ大蛇成テ貝鞆ノ飛込侍其蛇鱗三夜寺什物也  
蛇躡池埋テ建泉龍院庄山恩給上今變飯不用投桑飯  
山トヤ云レ

根柢村

曹洞流 寺領部在 寺日之  
寺別信外西國現

松海院

田口村

福禪寺

三才 二十九卷十三下 田信玄歸田村合戰中鐵炮掃陳逝云  
 於當寺信玄北流氏 稱 田新羅之郎二十七代孫也世傳為  
 騎射之礼式知甲別 小字 口勝千代 十六年 初冠大樹義晴云  
 賜諱字 名 晴信幼聰敏長有老成之智父信虎攻信別海  
 野口壘時堅守不能拔信玄 十六代 父僅以兵三百急襲促  
 攻城乃陷人以為異焉然父性徧而忌功惡信玄虐嫡  
 欲立次郎左馬頭信繁信玄與其姻族今川義元相謀  
 逐父於駿府自領甲府縱号 令 老將旧臣無夜爭者皆  
 畏服與近國豪將等合戰得勝利而暫息政事 愛  
 声色涵詞章 家臣 板垣信秋若能訊諫信玄大悔一切練  
 兵養士為事武威日盛也 三十一至 祝髮 号 法性院機山信玄  
 任僧正聽塗與逐舉信別伐上野屠駿府兼遠列略養  
 濃東郡凡所到舉旗拔城者不可勝計平生不高壘

深塹然隣國兵沒世不能窺境上矣天正元年 壽 五十三  
 具子 勝頼為平信長被亡滅吁悲哉其亡之速也信玄少時  
 逐父老不悔之說有治乱及正之功不足贖其罪之万一也

信玄堂

在信玄村

信玄卒後 天正三年 其子武田四郎勝頼率一萬五千兵圍  
 參列長篠城之奧平九郎信昌 九郎初為武田幕下今以屬  
 家康公及岡崎三郎織田信長織田城之助以七万兵合戰  
 武田之一族一万余討死埋骸於此地信玄之亡盡乎化蝶  
 群飛螿入演譽上人吊之慰亡魂于今七月十六日燒松  
 明里民踊躍亦具遺風也

密記之内寺社證文部

三河吉井久保一王子社領之事

右前々牧野民部丞寄附之五町八反令新寄進者仍如件

治部省

弘治二年二月廿八日

三河牛久保之内

隣杉寺及末寺常樂寺領之更

右代物式負八百文末七石五斗比々近年為不入不可相違

度牧野民部丞送心之使借壽金令相抱回府降上寺領共

令新寄進者也仍如件

弘治二年二月廿九日

治部省

河津大恩寺阿弥陀堂牧野建之

棟札有

大檀那

牧野右 名成守

家督傳三郎成元

天文廿二五月十三日

岩部亦家善吉  
竹中富元在焉

三河國宝飯郡清保大恩寺領之度

一南田寺分 一高勝寺分 一竜光寺分 一觀音寺分 一清雲寺分

一法恩寺分 一行明寺分 一市田島

以上六所九及委代方拾八貫六百餘也

右如牧野民部允時為新寄進永不可有相違門前在取棟別諸役為不入領掌訖此外諸未寺領寮舍以下是又如近年可令寺務山林見伐所令停止之也弥修造勤行不可有怠惰仍如件

弘治二年二月十七日

治部太史

大恩寺家譽上人

△永祿四年辛酉年一牧野西三河西尾ノ城誓守岩形ノ證文

於牛久保令度令取替米五石俵彼返歸之儀以米穀雖可申付為遠路之糸代物亦相定去四月之賣買斗別積石五十貫文可女價遠別吉養之以年貢錢申付之也若代物就不足若同郷之米時之賣買積り石五十貫文之首尾可相渡之殊利益之儀若一圓

令奉云段忠節也印判可請取之雖然彼地為境目之間若有引所於首尾相違者於自餘可申付者也仍如件

永祿四年辛酉七月七日

岩瀬雅樂助殿

氏真遊京ノ下トシ兵庫ノハサラヲ好ミ益トナシ玉ハ民部丞右馬允何トナリ遠サカリケル云爾牛久保組岩瀬雅樂助諸事被申付證文

一所々借置米錢委永代賣買等之事任天澤寺殿之佛判散之旨  
法募文言可所勢之永代之儀就賣主退轉不可立之德政年期延一切停止了鶴殿貞平監物菅沼新八郎其外之輩亦罷雖去先判委印判不可立之向後雖企新詔不可許容質物等於少分者諸役等可為新給永令免許次當知行長草之内柴岡之事十足程者尾登次第可取勢之至亦其上以奉行相改可勤其役之旨所任先判也將亦於駿府新酒之間之事一任先印判是又令免許之狀如件

永祿三庚申九月十七日

氏真判

岩瀬雅樂助殿

同人感狀

於今度三列錯亂各雖令逆心不准自餘於牛窪抽奉云殊城亦  
令取替元塩硝銘石竹城中以入之由朝比奈攝津守言上神妙也然云  
年吉田難說之時分天慮方以依令内通彼城于今堅固之儀是  
又忠節也因茲一所於何方茂見合可宛行此旨向後不可有相違  
者仍如件

永祿四年辛酉七月廿日

岩瀬雅樂助殿

△永祿四年氏真菅沼新八郎カ居城野田ノ城ヲ攻落シテ則城ハ駿列  
衆ヲ籠置テ今新八郎ハ西郷彈正方ハ退ク所ニ氏真命依テ牛久保牧野  
出羽守同右馬允西郷村ノ働キ暫戦有テ引退ク翌年不意ニ新八郎  
西郷ヨリ起テ野田ノ城ヲ取返ス此時稻垣半六討死

△岩瀬小四郎ハ岩瀬雅樂助カ一族ナリ氏真證文ニ

今度菅沼新八郎令逆心之所不致同意從野田牛窪止相退無意  
節馳走之段甚以神妙之至也為其賞從末年代官職一所可

申付然者以他之地内或拾文為新給恩可扶助也弥於勵奉云  
若重而可加扶助也仍如件

永祿四年辛酉年十二月九日

氏真判

岩瀬小四郎殿

△三河國牛久保領中在々從前々引來白山先達十々年来財賀寺

白山先達之文

中掠奪取之糸先年双方遂所之所櫻井寺様每餘儀之段於  
牛久保朝比奈攝津守伊東左近將監長谷川石見守聞届櫻井  
寺道理之上者於向後財賀寺競望堅ク所令停止也具外十壽  
院目錄之輩雖企競望前々引來分者永不可有相違更

△駿遠三衆三河之内白山先達引來在所之内就令居住者隨在  
所例於其時自駿遠居住之者不及其儀具外作手領牛久保領  
之内新地本地平井領菅沼藏部領長次領長篠領伊奈本及知行  
中鳳來寺門前之川谷分引來云云永不可有相違更

△棟別押之門前寺領中目前者免許不之永不可有相違  
長自他諸勸進停止之更  
右之任天澤寺殿到形兩道之有永領堂年銀真如院雖出置到  
形誓句為明鏡上者一切不可去之若於橫妨之更者注進之上  
可加下知者也如件

永祿六癸亥二月十九日

上總女判

櫻井寺

